ー知事が未来を探る、創る、提言するー

都道府県展望

2013
10
NO.661

全国知事会　(財) 都道府県会館

知事随想

岐阜県知事　古田肇

清流の国からのごあいさつ

特　集

中小企業の海外展開について

写真提供：鹿児島県観光連盟

ー知事が未来を探る、創る、提言するー

都道府県展望

2013 10 NO.661

屋久島白谷雲水峡（鹿児島県）

01. ZOOM UP〈ズームアップ〉
〈岐阜県〉第 39 回全国育樹祭の開催県に決定

02. 知事随想
清流の国からのごあいさつ
岐阜県知事　古田肇

04. ある日の知事
青森県知事　三村申吾

06. ふるさとの料理と名所探訪
〈千葉県〉秋の色・秋の味・魅力いっぱいギュッと千葉

08. 未来への遺産
〈栃木県〉次代に伝える技と伝統、そして文化　日光田母沢御用邸記念公園

09. 技が輝く
〈奈良県〉高山茶筌

10. 特集
中小企業の海外展開について

日本の経済発展を下支えする地方自治体の基本的役割
愛知淑徳大学ビジネス学部・ビジネス研究科学部長・研究科長・教授
真田幸光

中小企業の海外展開に向けた埼玉県の支援事業
埼玉県産業労働部企業立地課

愛知県における中小企業の海外展開支援について
愛知県産業労働部産業立地通商課

18. いま地域医療は
「“総合医＋いくつかの専門医”として、へき地医療に取り組む」
京丹後市立久美浜病院・内科　田儀英昭（京都府）

19. 地方自治情報化推進フェア 2013
ICT でつなぐ地域社会

20. 都道府県だより

44. 都道府県の情報コーナー

47. 貸し会議室の御案内
（財）都道府県会館管理部

48. 表紙解説
〈鹿児島県〉屋久島～世界自然遺産登録 20 周年～

第39回全国育樹祭の開催県に決定

８月９日の公益社団法人国土緑化推進機構理事会において、平成 27 年秋に開催される「第 39 回全国育樹祭」の開催県が岐阜県に決定しました。

全国育樹祭は、国土緑化運動の一環として、活力ある緑の造成機運を高め、次世代への連帯を深めることを目的として昭和 52 年から行われている行事であり、岐阜県では初めての開催になります。

【全国育樹祭のきっかけは岐阜県】

全国育樹祭の始まりには、岐阜県が国土緑化推進委員会と共催により昭和 51 年 11 月に開催した「全国育林祭」が大きな役割を占めています。

当時は、戦後植樹した人工林の大部分が最も人出を要する過程にあったものの、労働力不足、資金事情等のために、保育作業が十分ではありませんでした。このため、国土緑化運動推進の上からも育林（下刈り、除伐、枝打ち、病害虫防除等）の重要性が強く認識されていました。

そこで、当時の平野三郎岐阜県知事が強く要望し、岐阜県、国土緑化推進委員会、林野庁の三者で検討され、全国育林祭の開催に至りました。

■全国育林祭の趣旨

現代社会は人間関係や、職場環境、人の和、協調など、いわゆる横の関係が強く要求されているが、反面、核家族問題をはじめとして、親と子や教師と生徒の断絶といったような、いわゆる縦の連携が弱められている。これを是正するためには、林業以外にない。林業は親が植え、その子供が育て、孫が切り、そして植えて返すものである。そこで、植樹行事ならびに国土緑化大会で天皇皇后両陛下がお手植えされた木を皇太子殿下にお手入れをしていただき、育林・育樹の範を示していただこう。

※国土緑化運動五十年史（(社）国土緑化推進機構　編）から抜粋

そして、全国育林祭はその翌年、名称を「全国育樹祭」とし、皇太子殿下の御臨席を仰いで大分県で第１回が開催されました。

言わば岐阜県は第０回全国育樹祭の開催県と言えます。

【森の恵みをつなぐ、森の恵みを守る人づくり】

本県では、昭和 32 年に第８回全国植樹行事並びに国土緑化大会（全国植樹祭）を開催し、県土の保全と林業の活性化のため、豊かな森林を造り上げることに努めてきました。

また、平成 18 年には第 57 回全国植樹祭を開催し、「植えて、育てる」そして「伐って、利用する」という資源循環型の「生きた森林づくり」の実現に向け、森林施策の推進を図ってきました。

さらに、平成 24 年４月には、豊かな森林と清流を県民全体で支えていくための「清流の国ぎふ森林・環境税」を導入し、環境を重視した森林を守って生かす「恵みの森林づくり」の取組もスタートさせたところです。

県土の８割を占める豊かな森林と、それを源とする清流が織りなす豊かな自然を次世代に確実に引き継いでいくためにも、これら「森林づくり」の取組は極めて重要なことです。

この度の決定を受けて、第 39 回全国育樹祭を、豊かな森林を守り、森林づくりのノウハウ、知恵、技術などを次の世代につなげていく契機にしたいと考えています。

昭和 32 年　第８回全国植樹祭　（昭和天皇（右）の御手植え）

昭和 51 年　全国育林祭（育林（除伐）の披露）

Governor occasional thoughts

知事随想

清流の国からのごあいさつ

岐阜県知事　古田　肇

私たちのふるさと岐阜県は、三千メートル級の山々から、木曽川・長良川・揖斐川の“木曽三川”が合流する海抜ゼロメートル地帯まで、多様な自然を持っています。豊かな森とそこから生まれた清流は、今なおその美しさを保ち、人々の生活を支え、多くの恵みの源となっています。四季折々の変化に富んだ景観のほか、本県の誇るブランド「飛騨牛」や「富有柿」、現存する最古の紙の一つとして知られる「美濃手漉き和紙」や、食器類の全国出荷額の４割を超える「美濃焼」などの地場産業、そしてその伝統を支える確かな「モノづくり技術」の伝承など、すべて清流の恵みに育まれた本県ならではの財産です。まさに、岐阜県は「清流」から生まれた県であり、「清流」は岐阜県の最大の魅力であるとともにアイデンティティそのものと言えます。

私自身も、岐阜市内の長良川にほど近いところで生まれ、子どものころは夏になると毎日長良川で泳いでおり、いわば長良川に育ててもらったとも言えます。東京や海外で働いていた時は、目を閉じると、長良川の流れに身をゆだねて眺めていた金華山や岐阜城の姿が鮮明に思い起こされ、故郷を懐かしんだものです。

私は、８年前に経済産業省を辞め、知事として40年ぶりに地元岐阜県に帰ってきましたが、岐阜県の名産である鮎は、川で育ち海へ下って、また川に戻ってきます。私も考えてみると、長良川に育ててもらい、東京や海外で勉強をさせていただき、また岐阜に戻って、「清流の国ぎふ」を大切にしようと考えていることに、なんとも因縁めいたものを感じています。

さて、現在本県では、「清流の国ぎふ」づくりを掲げ、“清流”を切り口とした地域づくりを推進するため、様々な施策を実施していますが、本県が清流に育まれた県であると初めて本格的に紹介したのは３年前の上海万博に遡ります。岐阜県は、日本館のイベントスペースで「岐阜県の日」を開催し、「水の源“清流と森林から生まれた岐阜”」と題した展示をしました。特産である美濃和紙の巨大なスクリーンに、岐阜の清流や水のたたずまいを映し出し、ミストを噴出しながら水の匂いを感じてもらい、岐

阜県は清流によって生かされているというストーリーでキャンペーンを展開したところ、特に外国の方々に非常に評判がよく、予想以上の反響を受けました。そのため本県では、これ以来、県をイメージできる言葉として、“清流”の二文字を使うようになりました。

その後、海がない県として初めて開催した平成22年の「全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～」と、平成24年の国民体育大会「ぎふ清流国体」及び全国障害者スポーツ大会「ぎふ清流大会」を通して、県民の皆さんに「清流」が次第に浸透してきました。最近では、新しい幼稚園や中学校、バス、イベントの名称などにも清流の二文字が冠せられることが増えてきました。

こうして県民の皆さんの清流への理解と関心が深まるにつれ、森・川・海のつながりの中での環境保全に対する意識もより高まってきました。しかし、一方で適切に管理されていない森林や野生動物による農作物の被害の増加や外来生物の繁殖、水環境の悪化などが問題となっています。

このため、県としては、清流をキーワードとした地域づくりと同時に、清流を守るための取り組みを進めています。

まずは、平成24年度から導入した「清流の国ぎふ森林・環境税」です。清流の源である森林は県民の共有財産という認識のもと、これらの持つ公益的機能を県民が将来にわたって享受できるよう、その保全・再生を県民全体で支えていく取り組みを合わせて進めることが必要です。この税を活用して、水源林の整備や、里山林の整備・利用の促進、生物多様性・水環境の保全、県産材の利用促進など、森林や河川の保全を県民全体で支えていく様々な事業を実施しています。

また、平成22年の「第30回全国豊かな海づくり大会」を契機に、平成23年度からは、清流への関心と理解を深め、保全活動への参加意欲をさらに高めていただくため、水に親しむ機会が増える7月を『清流月間』と定めました。今年度も環境学習や河川清掃など、約140もの活動が県や市町村、NPO、学校、企業などにより県内各地で行われました。

さらに、近年適切な管理が行われない森林の増加や、外国資本等による森林の買収が問題となっています。将来的に森林等が持つ水源かん養機能の低下が懸念されていることから、今年4月1日に、「岐阜県水源地域保全条例」を施行しました。条例では、公共用に使用されている水源地とその周辺区域を「水源地域」として県が指定し、水源地域内で土地取引行為を行う場合は、契約の30日前までに県へ届け出ることを義務付けました。県では適正な土地利用について助言・指導を行い、虚偽の届け出などに対する罰則も設けています。この事前届出制は10月1日からスタートさせたところです。

岐阜県では今後も、かけがえのない清流の大切さを認識し、岐阜県が水に大変恵まれた地域であるということを実感しながら地域づくりを進めていきたいと思っています。私たちの生活は常に水と接しながら成り立っています。清流を大切に守りながら発展させ、次の世代につないでいくことが、今まで清流により成長させてもらい、今も変わらず恩恵を受けている私たち岐阜県民の使命だと考えています。

ある日の知事

青森県知事　三村　申吾

■未来デザイン県民会議「知事との元気まるごとトーク」

7月22日（月）

県民の皆様のご意見やご提言を県政に反映したいと考え、地域で元気に活動している県民の方と意見交換させていただいている。

今日は今年度第１回目の「知事との元気まるごとトーク」。「『街』をみんなが楽しみ集まる元気拠点に」をテーマに、弘前市中心市街地を拠点に活動されている４団体の代表者の方々と、大いに意見交換をさせていただいた。

意見交換に先立ち、参加団体の一つで、まちなかで気軽にスポーツを楽しめる環境づくりや、地域コミュニティの活性化に取り組まれている特定非営利活動法人スポネット弘前によるヨガ教室を体験した。ゆったりした動きでありながら全身の様々な筋肉を使い、楽しくしっかりと体を動かすことができると感じた。

心と体をほぐしたところで意見交換に移り、各団体から現在の取組や課題、今後の展望等について、熱く語っていただいた。前述のスポーツを通じた地域の活性化や、まちなかにおける買い物弱者支援、ダンス文化を地域に根づかせる活動、農業の６次産業化等、彼らの地域を元気にする活動をとてもうれしく、そして心強く思った。

また、彼らを中心に様々な団体が連携して、民間レベル・市民レベルでのまちなかの賑わい創出を目指した動きが出てきているとのこと。新たな地域の魅力づくりが、今後更に進化していくことを期待したい。

県内各地域の方々の、一人ひとりの熱意やエネルギーが集まって、より良い、より魅力ある青森県になっていくものと考えている。今回お話をうかがった４団体のチャレンジを、私自身、県内の多くの人に伝えていきたいと思った。

意見交換前にヨガ教室を体験

■台湾新竹県訪問団　来青

8月5日（月）

「ラッセーラー、ラッセーラー！」

跳人のかけ声とお囃子を聞くと、青森にも夏が来たことを実感する。そして、今日この「青森ねぶた祭り」に合わせて、台湾新竹県から邱鏡淳県長をトップとする訪問団が、青森県庁を訪ねてくれた。

そもそも青森と台湾新竹県とは「青森ねぶた」を通じたご縁。「青森ねぶた」が今年の冬、新竹県で開催された「台湾ランタンフェスティバル」に出陣したのだ。「台湾ランタンフェスティバル」とは、旧正月の締めくくりとなる「元宵節」を華やかに飾る台湾最大級のイベント。毎年開催地を変更して開かれており、選ばれた開催地では、これまで以上に素晴らしいイベントにするべく入念な準備が行われる。いいアイディアはないかと考えていた邱県長の目に留まったのが、「青森ねぶた」だったのだ。

今回のイベントのために特別に製作したねぶた「龍王」は、青森から参加した囃子方や跳人として参加してくれた台湾の皆さんのおかげで、見物客を圧倒し大興奮させることができたようだ。そして、

今年で24回目を迎えた同イベントは、延べ1,200万人という参観者の最多記録を打ち立て、大成功をおさめた。

約1年ぶりにお会いした邱県長と、固い握手を交わす。この後、邱県長は日中の仕事を精力的にこなし、夜は「青森ねぶた」に参加してくださった。体力に自信のある私もびっくりのパワフルさ。予定では開始から少しの間だけ「青森ねぶた」に参加し、その後はゆっくり観覧される予定だったが、祭りが終わるまでの2時間もの間ずっと参加くださり、祭りに華を添えた。

今回の祭りを通した青森市と新竹県とのホットな文化交流が、今後観光や産業など様々な分野での交流に広がっていくよう、そしてこのような台湾各地と県内市町村との交流が更に活発化するよう取り組んでいきたい。

台湾新竹県訪問団を職員とともに熱烈歓迎

■奥入瀬サミット2013

―輝く女性のためのプレミアムセミナー十和田湖3Days―

9月6日（金）

今日から3日間の日程で、十和田湖・奥入瀬渓流を舞台に、「奥入瀬サミット」を開催する。

これからの日本の成長、地域社会の発展を考えたとき、女性がますます元気で活躍する社会でなければならない。そこで、女性リーダーの育成とネットワークづくりをめざして開催するのが、この「奥入瀬サミット」である。

昨年に続いて2回目となる今回は、県内はもとより、北は北海道から南は沖縄まで、日本全国から46人のチャレンジ意欲に満ちた女性が集まってくださった。

「奥入瀬サミット」の特長の一つは、著名講師陣。宇宙飛行士の山崎直子さん、昭和女子大学の坂東眞理子学長、マラソンランナーの谷川真理さんをはじめ、今年も各分野の第一線で活躍している方々を講師としてお招きしている。また、乗馬、カヌー、温泉、ランブリング、ヨガ、エステなど、十和田湖・奥入瀬渓流の自然を生かした多彩なアクティビティも魅力の一つである。

初日となる今日。最初の講師は山崎直子さん。「宇宙・人・夢をつなぐ」というテーマで、宇宙飛行士をめざした経緯や宇宙に飛び立つ前の訓練の様子、実際に宇宙に行ってからの体験などをお話してくださった。

続く講師は、株式会社HASUNA代表の白木夏子さん。人や社会･自然環境に配慮した素材で作る「エシカルジュエリービジネス」を展開している、注目の女性起業家である。フェアトレードで、途上国の貧困問題を解決しようという高い志と行動力に感銘を受けた。

講師の講演の後は交流会。元気な女性の方々との交流を通じて、私自身もパワーをもらった。

講師はじめ参加者の方々は、皆一様に人間としての魅力に満ち、凛として美しい。参加者の皆さんには、この3日間、いろいろな人と交流し、たくさんの刺激を受けて、これからのステップアップにつなげていってほしいと思っている。

十和田湖・奥入瀬渓流に来なければ体験できないプレミアムセミナー「奥入瀬サミット」。これを定着させ、日本、そして青森県の未来を輝かせていきたい。

「奥入瀬サミット」交流会で参加者と歓談

ふるさとの料理と名所探訪

CHIBA

千葉県

秋の色・秋の味・
魅力いっぱいギュッと千葉

外房地域のいすみ市と大多喜町を走るローカル線「いすみ鉄道」に乗って、新しい千葉県の魅力を発見してみませんか？

海に面し、緑豊かないすみ市と、雄大な渓谷を持つ大多喜町は、『食・風景』とともに、自然の魅力があふれています。心からのおもてなしで皆様をお迎えいたします。

名　所

■いすみ鉄道

大原駅（いすみ市）から、美しい田園風景や歴史ある城下の街並みの中を走り、上総中野駅（大多喜町）までの 26.8km を結ぶローカル線。沿線の風景が「ムーミン谷」に似ていることから、ムーミンと仲間たちが描かれた「ムーミン列車」が運行しています。そのかわいらしさから、ムーミンファンならずとも大人気です。

秋にはコスモス、春には黄色い帯となって咲き誇る菜の花、初夏にはあじさいなど四季折々の花々が沿線を飾り、こころを癒すお勧めの光景が広がります。

■養老渓谷

養老渓谷の紅葉は例年 11 月下旬頃から見頃を迎え、関東で一番遅い紅葉が楽しめる地域として人気です。養老渓谷に広がる紅葉はしっとりとした美しさで、千葉県を代表する秋の色を見せてくれます。粟又の滝から小沢又の滝までの養老川沿いには、約 2 km の遊歩道が整備され、清流のせせらぎや小鳥のさえずりを聞きながら散策することができます。ハイキングを楽しんだ後は、養老渓谷の黒湯の温泉でゆったり疲れをお取りください。

コスモスの中を進むいすみ鉄道

粟又の滝遊歩道の紅葉

■千葉に生まれた稀代の宮彫師「波の伊八」

初代「伊八」武志伊八郎信由は、現在の鴨川市で生まれ、江戸後期、主に房総南部の神社や寺院の欄間彫刻などに優れた作品を残しました。外房の荒波を象徴するダイナミックな「波」の浮き彫りは、「波を彫っては天下一」と言わしめ、「波の伊八」の異名で知られています。

また、この作風は、葛飾北斎の作品「富嶽三十六景『神奈川沖浪裏』」の波に大きな影響を与えたと言われています。いすみ市内の飯縄寺の「天狗と牛若」や行元寺旧書院の欄間彫刻「波と宝珠」を始め、県内各地の寺社にたくさんの彫刻が残されています。

行元寺欄間彫刻「波と宝珠」

食べ物

■外房イセエビ

「千葉県でイセエビ？」と思われるかもしれませんが、この 15 年間で 13 年も産出量日本一となるなど千葉県はイセエビの宝庫です。いすみ市の大原・太東はイセエビ漁が盛んで、「外房イセエビ」は「千葉ブランド水産物」にも認定されている千葉県を代表する特産品です。鮮やかな色と滋味あふれるおいしさで、お祝い事にふさわしい品質の高さを誇ります。

千葉ブランド水産物「外房イセエビ」

■最中十万石

「房総の小江戸」としても知られる大多喜町は、徳川四天王の一人本多忠勝が大多喜城を築いた歴史ある町です。城下町の面影を残す街並みの中、地元の人にも観光客にも大人気なのが、津知家の銘菓「上総大多喜城・最中十万石」。皮に収まりきらないほどたっぷりのあんには誰もが驚きますが、北海道産の上質なつぶあんと、厳選された国産のもち米を使った最中種の組み合わせはまさに絶品です。一度御賞味ください。

銘菓「上総大多喜城　最中十万石」

お問合せ

千葉県商工労働部観光誘致促進課
TEL 043-223-2412

千葉県庁HP
http://www.pref.chiba.lg.jp/

ちばの観光まるごと紹介HP
http://www.kanko.chuo.chiba.jp/

未来への遺産

栃木県

次代に伝える技と伝統、そして文化

日光田母沢御用邸記念公園

○ 3代の天皇・皇太子が御利用になった御用邸

世界遺産である日光の社寺から西に約 1.2km の場所にある日光田母沢御用邸は、明治 32 年に大正天皇（当時は皇太子）の御静養のために造営され、昭和 22 年に廃止されるまで、3代にわたる天皇・皇太子が御利用になりました。

明治期に造営された御用邸の中でも最大規模の木造建築で、本邸が現存する唯一の建物です。平成 15 年に貴重な建造物として国の重要文化財に指定され、平成 19 年には「日本の歴史公園 100 選」に選定されました。

○ 江戸・明治・大正時代の最高の建築技術を結集

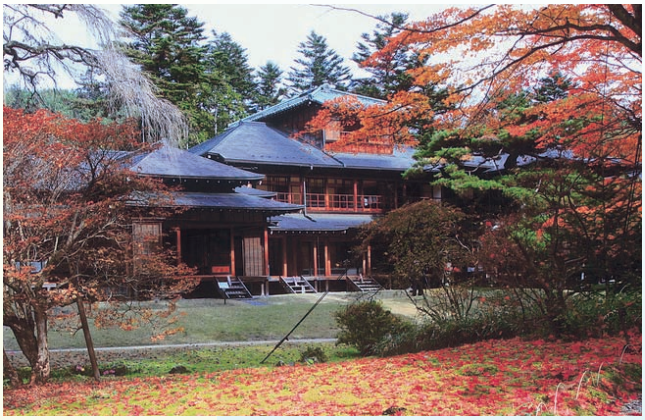
御用邸は、この地にあった民間住宅（小林家別邸）に、当時、赤坂離宮などに使われていた旧紀州徳川家江戸中屋敷の一部を移築し、新たな部分を加えて造営されました。その後、小規模な増改築を経て、大正天皇の御即位後から大規模な増改築が行われ、大正 10 年に現在の姿となりました。

そのため、江戸・明治・大正と三時代の建築様式を持つ集合建築群となり、これらの建物の併用が当初から存在していたかのように建てられているところに大きな特徴があり、当時の建築技術や皇室文化を垣間見ることができます。

○ 現代の匠たちの手により記念公園として蘇った御用邸

戦後、御用邸は博物館や宿泊施設などとして使用されていましたが、栃木県では、御用邸に刻まれた技と伝統を後世に伝えるために、各時代における建築技術を綿密に調査するとともに、それらを受け継ぐ今日の匠たちの手によって、往年の姿をできるだけ忠実に再現し、日光田母沢御用邸記念公園として一般に公開しています。

庭園の紅葉も見ごろとなるこれからの季節に、日光田母沢御用邸の 100 年に及ぶ荘厳な趣きを堪能してみませんか。



日光田母沢御用邸記念公園

「御車寄」は明治 22 年造営の東宮御所から移築され、公式の玄関として使用されました

公式儀礼などに使用された「謁見所」。最高の木材と最高の技術で作られたこの部屋を、修復工事の関係者は「木材の宝石箱」と呼びました

〈お問合せ〉
日光田母沢御用邸記念公園
TEL 0288-53-6767
HP http://www.park-tochigi.com/tamozawa/

技が輝く

奈良県

高山茶筌

◆日本の茶筌づくりの里

奈良県北部に位置する生駒市高山地域は、室町時代から受け継がれてきた「茶筌師の里」として広く知られ、緻密で精緻な技法は、「日本の茶の湯」を通じて国内外で高い評価を受けています。他に類のない優れた伝統技法でつくられる高山茶筌は、国内生産のほぼ100%を占め、茶筌の制作に伴い豊富な種類の茶道具もつくられています。

◆高山茶筌の歴史

室町時代の中頃、鷹山城主の次男・宗砌（そうせつ）が、奈良・称名寺の住職でわび茶の創始者として知られる村田珠光（むらたじゅこう）に依頼されてつくったのが始まりと伝えられています。

後土御門天皇の行幸の折りに、宗砌が献上した茶筌をお褒めになり、その茶筌に「高穂」という名を賜りました。

この光栄を鷹山一族の技として継承し、代々後継ぎにのみ「一子相伝」の技として今日まで脈々と受け継がれ、昭和50年には、国の伝統工芸品に指定されました。

各流儀、用途に沿って60～120本位の穂先を丹念に形づくる伝統工芸士の谷村さん

◆高山茶筌の特徴

高山茶筌は、煤竹・黒竹・白竹を材料に、2・3年生の良質の竹を油抜きし、冬期に天日干しを行った後、貯蔵したものを使用します。

まず節の上半分位から先方の表皮をむき、穂の基準となる数に分割する「片木（へぎ）」を行い、さらに「小割」「味削り」「面取り」といった伝統的な技法で、竹の特性を生かし、ある程度の堅さを残しつつしなやかな穂先に仕上げます。そして、「下編（したあみ）・上編（うわあみ）」で交互に糸をかけ、「腰並べ」「仕上げ」の工程を経て穂先を一つひとつ丹念に形づくります。

これらの制作工程は、熟練された指先の感触と小刀等を使ってつくられ、まさに「手づくりの伝統工芸」といえます。

茶の味が変わるといわれる「味削り」の工程

上下左右の間隔を並べる「仕上げ」の工程

◆伝統を守り、次世代へ伝える

現在、奈良県高山茶筌生産協同組合では、21名の茶筌師が活動しています。茶筌師の高齢化問題等を抱える中、伝統産業の発展と後継者の育成、茶道の振興にも力を入れ、約500年の歴史をもつ高山茶筌を次の世代へ伝える活動をしています。

また、高山の地には、高山茶筌を始めとする地場産業の一層の振興を図ろうと設けられた「高山竹林園」があり、美しい庭園の中にある資料館では、茶筌や茶道具などが展示され、茶筌の制作実演が行われるなど、好評を博しています。

茶筌の制作工程

お問合せ

奈良県高山茶筌生産協同組合

奈良県生駒市高山町5725

TEL/FAX 0743-71-3808

特集 中小企業の海外展開について

日本の経済発展を下支えする地方自治体の基本的役割

愛知淑徳大学 ビジネス学部・ビジネス研究科 学部長・研究科長・教授　真田幸光

はじめに

今回、御縁があり、本稿を書かせて戴くこととなった。

筆者は、社会人としてスタートした東京銀行（現三菱東京 UFJ 銀行）行員時代からこれまで、日本経済と国際経済をつなぎ、日本の発展とアジア、そして世界の発展を共に達成し得る道を模索し、銀行員として、そして大学教員としてそうした活動を続け、その過程で、日本政府や各国政府、あるいは日本の各地方自治体や世界各国の地方政府と、直接、間接に交流をし、非力ではあるがその具現化に努めてきた。

結果はともかく、少なくとも、努力をしてきたということだけは自負している。

本稿では、そうした筆者の拙い体験を基にして、日本の地方自治体の経済発展に対する役割などについて筆者の考えを簡単にコメントさせて戴きたいと考えている。

そしてまた、ここでは、

「各地域に根ざす中堅・中小企業のビジネス展開が今後どうあるべきか？
特に、国内市場の爆発的な拡大が今後、あまり望めぬ中にあって、各地域の中堅・中小企業の国際ビジネス展開をどうしていくべきか？」

を強く意識した上で、地域経済の発展と地方自治体の役割についてコメントしていきたいと考えている。

尚、本稿は、学術的、かつ定量分析に基づく見方を基本とするのではなく、現状、あるいは実体に即した定性分析的視点に立って論じていくことをお許し戴きたい。

地方自治体の基本的役割

筆者は、日本を取り巻く現行の自由主義、資本主義社会の中では、原則としては、

「小さな政府」

として、中央政府も地方自治体も活動していくことが好ましいと考えている。

即ち、

「社会的に見たコスト・センターとしての中央政府や地方自治体は、実体ビジネスには深く関与せず、基本的にはプロフィット・センターである民間分野の活動に任せ、その活動を下支えしていくことが、その“基本的立ち位置”である。」

と考えている。

失礼を省みず、もっと分かり易く、平易な言葉で言えば、

「中央政府や地方自治体は、民間部門に対して、“余計な”口を出すな !!
民間部門のかえって邪魔をしないように気を付けよ !!」

と言うことである。

しかし、それは、もちろん、

「中央政府や地方自治体は何をやらなくても良い。」

ということではない。

小さな政府として、行うべき大切な役割は、

「民間部門が自由に、そして公正に活動ができるようにするための、ルールやシステムを作っていくこと、そして、そのルールやシステムの管理・監督を公明正大に行っていくこと。」

にある。

これは、社会情勢が如何なる状況にあっても、コスト・センターである中央政府や地方自治体が果たさなくてはならぬ最重要の役割である。

したがって、本稿では、この点を、地方自治体が果たすべき基本的役割の一つとして先ず指摘しておきたい。

一方で、民間部門が様々な理由や背景から大打撃を受け、その結果として、その活動を維持できずに後退し、これによって、社会全体も沈下してしまうような危険性を孕むケースもある。最近で言えば、リーマンショックなどがこれに当たる。

こうした状況やケースに於いて、中央政府や地方自治体が果たすべき重要な役割は、

「社会的なセーフティー・ネットを再構築し、社会全体が沈没しないように食い止める。」

と言う点も重要となる。

ただし、ここでは、
「“安易に”セーフティー・ネットを構築、運用してしまい、民間部門にモラルハザードを起こさないように留意すること。」
を付言なしつつ、その大切な役割の２番目として掲げたい。

そして、もう一つ、意識しておきたい大切な役割を述べる。

民間部門にも様々な主役が存在している。

特に、景気が減速するような状況にあっては、必ずしも各企業の自力だけでは再生しきれない、あるいは発展しきれない主役も生まれてくる。

あるいは、発展の潜在的な底力はあるものの、更なる発展のきっかけを上手に掴みきれず、地域の雇用機会拡大や納税拡大にまで達しきれていない主役も存在している。

そこで、そうした民間部門の主役たちを、行き過ぎた、過剰な支援しない程度に、その後押しをする、即ち、適度、適切に支援をしていくことが、中央政府や地方自治体の大きな役割の一つであり、そのさじ加減が問われるのである。

また、いずれにしても、中央政府や地方自治体が上述をした大きく三つの役割を果たすに際しての原資が、
「民からの浄財としての税金」
であることを強く意識し、
「安易な議論や決断から、そうした支援を実施しないこと。
しかし、その一方で、あまりにも事なかれ主義になり過ぎ、リスクを取りきれずに、結局は何も行わない、あるいは、行えないといった最悪の事態だけは回避すること。」
を念頭に置いて、機動的なアクションを起こすべきであるということを付言しておきたい。

ところで、こうした地方自治体の役割を支え、これを実際に実行する「人材」が大切であるということは言うまでもないことである。

したがって、そうした有能な人材としての職員を地方自治体自身が重用しなくてはならない。

こうした活動ができる人材は、広く大局的にものが見える人材であると共に、専門的な知識と、何よりも幅広い経験、そして慇懃無礼ではなく、真に民を支える意識を持っていなければならない。

しかし、筆者の見るところ、そうした優れた人材は、どうも典型的な自治体職員のジョブ・ローテーションの中ではこれまで育成しきれていないようである。

筆者の、このようなこれまでの体験を基にして考えると、
「経済発展を下支えする地方自治体職員は一定の幅広い視点を持ちつつも、何よりも専門性を持たねばならず、通常のジョブ・ローテーションからたとえ外れたとしても、そうした高い専門性を持つ職員であれば、そのほかの職員と同様、あるいは、むしろ、その専門性を高く評価して“昇進させていくシステム”を地方自治体として一応、用意しておかないと、上述したような三つの重要な役割を果たす大切なプレーヤーとしての有能な人材としての職員が、地方自治体の中には不足し、優れた政策を立案しても、それを具現化することができないということが懸念されるのである。」

以上、本稿の冒頭では、概念的なことを述べた。

これ以降は、より具体的に、また、上述した役割のうち、３番目に掲げた、
「民間部門の主役たちを過剰に支援しない程度に、即ち、適度、適切に支援をしていく。」
ということに関して焦点を充てながらコメントしていくこととする。

日本企業を取り巻くビジネス環境と地方自治体の役割

極めて雑な申し上げ方をするが、日本企業を取り巻く現状のビジネス環境を考えると、

(1) 日本経済を内需面から見ると、国内新規インフラ開発需要は、総じて弱い。
同様に自動車を始め、様々な耐久消費財の潜在需要も決して強くない。
この結果、日本は、既に安定成長という名の低成長時代に突入している。

(2) さらに、人口は現在まだ、１億 2,700 万人を抱え、決して少なくはないものの、中長期的に見れば、少子・高齢化という複雑骨折をしながら、徐々に減少していくことが確実視され、今後の内需販売拡大に向けたビジネス環境は、必ずしも芳しくない。

(3) こうした内需の限界を克服して、それでも内需販売拡大を目指そうとすると、国内ニッチビジネス（ローカルニッチに基づく、ローカルマスビジネスと、一部、特化した量を追わないローカルビジネス）に向かうことが、一つの対応策となろう。

(4) 一方で、内需販売拡大に限界を感じる分野や企業は、そのビジネスの軸足を外需販売拡大に置き換えていくことになろう。
これは、既に日本の大企業たちが、グローバルマスビジネス展開の中でビジネス最適地を求めてグローバル展開しながら実施していることにも見られ、その大企業たちの多くは、既に、日本企業というよりも、
「日本オリジンの多国籍企業、さらには無国

籍企業」
に変質してきているものと思われる。
しかし、これら大企業の多くは、多国籍企業・無国籍企業化しているがゆえに、必ずしも日本国内に雇用を残し、利益を齎し、日本に於いて納税を拡大していこうとしているとは限らない。

(5) こうした日本オリジンの無国籍企業に大きく依存する日本の多くの中堅・中小のサポーティングインダストリーズは、それら、大企業のグローバル展開に引きずられるようにビジネスの国際展開を行い、国内ビジネスの根っこを抜き、その軸足を好むと好まざるとにかかわらず、日本国内から海外に置き換えていく傾向を示している。

といった形で総括できよう。

さて、こうした中で、改めて、地方自治体が経済発展に果たすべき役割を、「公正なルールやシステム作りとその監督・管理」や、「セーフティー・ネット」ではなく、
「民間部門の主役たちを過剰に支援しない程度に、即ち、適度、適切に支援をしていく。」
という役割に焦点を充てて論じることとする。

筆者が考えている答えは極めてシンプルである。

それは、
「日本国内に雇用機会を残し、利益を上げて、納税してくれる、しかし、現状では、自力拡大には課題を抱えている企業たちの、行政に期待するニーズを掘り起こして、その支援に当たること。」
にある。

地方自治体が税金という浄財を使ってまで、支援をする企業は、原則としては、地域に雇用機会を残し、納税をして地域にきちんとお返しするような企業でなくてはならない。

そうした企業をきちんと見つけて、その上で、彼らが必要としていることを側面支援してあげることに尽きるのである。

企業は、ビジネスの四要素、即ち、「ひと」、「もの」、「資金」、「情報」を有効活用しながら、ビジネスを拡大し、その懐を深くしていく。

これを、意識すれば、地域経済発展に役立つ企業を選定した後の、地方自治体が経済発展に果たすべき次の役割は、

＊対象企業が必要とする人材の発掘支援やその資金的支援（ひと）
＊対象企業が必要とする設備や原材料導入に関する発掘支援やその資金支援（もの）
＊こうしたことを含めた補助金の供与や、保証、保証予約、経営指導念書といった各種信用補完の提供（資金）
＊そして、経営全般に関する情報の多角的提供（情報）

などが重要な役割であり、これらを各地方自治体の財政状況に応じて、なるべく、資金の供出を限定しつつ効果を上げる形で実施していくことである。

そして、筆者が認識しているところでは、上述したような、
「日本に居ながらにして、雇用機会を残し、外貨を稼ぎ、利益を上げて、納税を拡大していこうとする地域経済、日本経済の発展に貢献するであろう企業」
が必要としている最重要点は、
「自社のグローバルな立ち位置」
を明確に知るためのノウハウややり方である。

つまり、
「世界を見回してみた場合、自社が世界的にも必要なものやサービスを提供しているか？」
「世界を見回してみた場合、自社の存在を脅かすような競争相手がいるかどうか？」
「世界を見回してみた場合、だれが自社を最も高く評価してくれているか？」
を確認することをこれら企業は求めており、これができれば、その理想では、
「世界が物凄く強く必要としているものやサービスを我が社しか提供できず、それを最も高く評価してくれているＡ社に売っていけば、我が社は確実に儲かる。」
ということに至る、そして、そうした状況を作ることを企業は究極の目標とし、これを追い求めているのである。

したがって、地方自治体が経済発展に果たすべき役割の究極も、これに合わせて、
「選定した対象企業のグローバルな立ち位置を見出すことのお手伝い」
にあると言えるのである。

地域経済の発展を支える主役企業の国際戦略に向けた基本姿勢と地方自治体の役割

筆者はかねてより、企業の国際展開は、経営戦略具現化の一つの姿であり、必ずしも国際戦略、アジア展開を実施する必要がないところは実施しなくてもいい、否、そもそも、筆者は企業の国際展開には、どちらかと言えば消極的な立場を取る者である。

即ち、ビジネスの国際化を図ると、国内ビジネスと相対比較すれば、(1) 言語のリスク (2) 通貨のリスク (3) 法律のリスク (4) 環境基準を含む製造基準のリスク (5) 会計基準といったリスクが一般的、相対的には高くなり、これに見合う

きちんとした対価を追い求めぬ限り、経営が「危険多くして利益少なし」といった状態に追い込まれることになりかねない。したがって、これまでもしばしば指摘されている「大企業を中心とする取引先の要請、依頼を受けて」といったことを主たる背景として、海外生産拠点を設立するといった展開を図ることなどを、筆者は基本的には「良し」としていない。

しかし、それでも、例えば、原材料や部材などを海外調達せざるを得ない、人材の確保をせざるを得ない、生産コストを引き下げるためには海外に展開せざるを得ない、販売先を求めて海外展開を図らざるを得ないといった現実がある、よって、国際展開、アジア展開を、好むと好まざるとかかわらず、図らざるを得ないといった企業が多々あることもまた、もちろん、強く認識している。そして、だからこそ、企業の国際戦略、アジア展開は慎重に検討をした上で、大胆に動くことを必要としているとも考えている。

企業の国際展開は、このような考え方の基で議論されるべきであり、よって、リスク対比リターンの観点から見て、(1) 技術移転による外貨獲得 (2) 輸出による外貨獲得 (3) 海外生産拠点、販売拠点設立に伴う外貨獲得 (4) 安価・優秀なる人材の確保 (5) 原材料や部材の量と価格の安定確保 (6) 国際的な資金調達と運用 (7) 国際的な情報収集と情報発信の促進などの範疇を意識した上で、その具体策を推進すべきであると考えている。

したがって、地方自治体も、これら主役としての企業が、
「自社の国際的な立ち位置」
を知ることのお手伝いをするために、上記を意識しながら、各社の要望と各地方自治体の能力、体制をすり合わせて、人材の供与、設備などの提供支援、信用補完を含めた資金支援、そして情報提供を行っていく必要があるのである。

本稿の最後に、上記の中でも特に「リスク対比リターン」の観点を強く意識し上手に国際ビジネス展開を行っている企業の事例を基にして、地方自治体が果たすべき役割を概観し、本稿を終えることとする。

{事例：中国企業の資本参加を受けビジネス拡大に向け歩み始めたA社}

A社は光学特性フィルムコーティングを中心に工業用フィルム加工を主たる業務とする従業員約200人、資本金約10億円、創業60年を超える企業である。

既に、ジャスダック上場を果たし、また瑞浪に新工場を建設するなど、その高度技術を背景に事業展開を拡大、さらに、中国政府系ファンドの資本参加を受け、資本の拡充を図るとともに、中国資本の中国国内に於けるビジネス・パワーを利用して、日本に居ながらにして、日本の技術やノウハウを生かしながら、国内販売に加えて中国ビジネス、さらにはその他の国際ビジネスを拡大することに成功し始めている。

こうした国際展開を支えていくためには、社内に国際的な法律を理解できる人材、海外マーケティングを行える人材、貿易実務や技術提携ができる人材など、能力が高い、しかし、極力、そのコストが安くて済む人材を社内で育成するとともに、当面は社外から調達しなければならない。

しかし、これはお気づきのとおり必ずしも簡単なことではない。

だからこそ、そうした人材確保の手伝いを地方自治体がしてくれることは、企業にとっては、大きな支えとなる。

新工場を新設するために、様々な設置許可や各地域での人材確保をすることも容易ではない。この点に関する地方自治体の前向きなサポートも当然に大きな支えとなる。

さらに、たとえ、補助金や特別融資など、実弾（下品な表現で恐縮である。）としての資金支援がなくとも、当該プロジェクトは地方自治体としても強く期待し、認識している、あるいは当該企業は自治体にとって優良ブランド企業であるといった認定をしてあげるだけでも、資金調達には大いなる支えとなる。

そして、マーケット・ニーズや為替リスク、労務リスク、法務リスクに関する情報提供と、それらをカバーしてくれるようなコンサルタント、弁護士、労務士、金融機関の紹介とその利用に関する費用の一部支援などは間違いなくサポーティブである。

地方自治体が、こうした姿勢を貫き、派手ではないが、地道に地域経済の民間の主役たちを適度に適切に下支えしていけば、日本経済は、地域経済の拡大と共に、更に強固になっていくものと筆者は確信している。

本稿が読者の皆様方の少しでもお役に立てば幸いである。

中小企業の海外展開に向けた埼玉県の支援事業

埼玉県産業労働部企業立地課

1　日本企業の海外進出

人口減少・高齢化の進展によって国内需要の縮小が懸念される中、日本企業が海外市場の成長を取り込むため海外進出する傾向が続いています。

日本貿易振興機構（ジェトロ）の調査によると、日本の加工型製造業の売上上位 50 社の海外売上比率は、11 年度の 56.2%から 12 年度は 58.8%まで増加しています。

2　県内企業に対する海外進出支援

埼玉県には全国第４位となる約 13,000 社の製造事業所があります。そしてその多くが多様で、優れた技術を持つ中小企業です。

これらの県内企業においても海外進出の意欲が高まっており、「初めて海外に製造拠点を設置することになったが情報を提供してほしい」、「現地法人の設立方法を教えてほしい」等の声が多数寄せられるようになりました。

平成 24 年８月に埼玉県産業振興公社が県内中小製造業を対象に実施した調査の結果、海外に製造拠点を有する企業の割合は 30.9%でした。過去に進出して撤退した企業を合わせると 34.0%となり、３社に１社が海外進出経験があるという結果となりました。

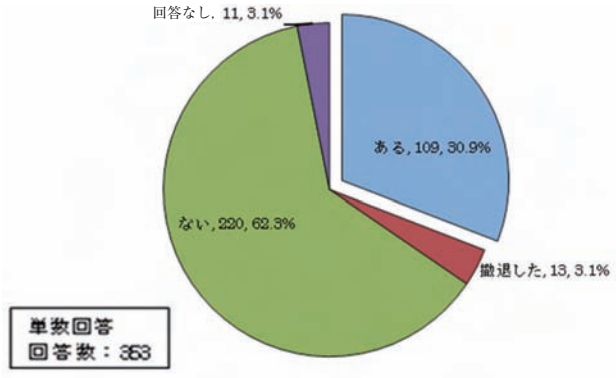


図１　海外の製造拠点・販売拠点の有無

出典：埼玉県産業振興公社「県内中小企業における国際化に関する実態調査報告書」（平成 24 年８月）

また平成 24 年８月にぶぎん地域経済研究所が県内企業に対して実施した海外進出状況調査によると、３年以内に海外進出を予定している企業の割合は 42%に達しました。この傾向は今後も継続すると考えられます。

しかし、県内中小企業には、言語の問題に加え、現地の法制度や商習慣等への適応など、海外進出のための知識・ノウハウが不足しているケースが少なくありません。

こうしたことから、埼玉県では海外進出を目指す中小企業向けに、進出に当たっての諸課題を解決し、リスクを少しでも軽減できるようきめの細かい支援を行っています。

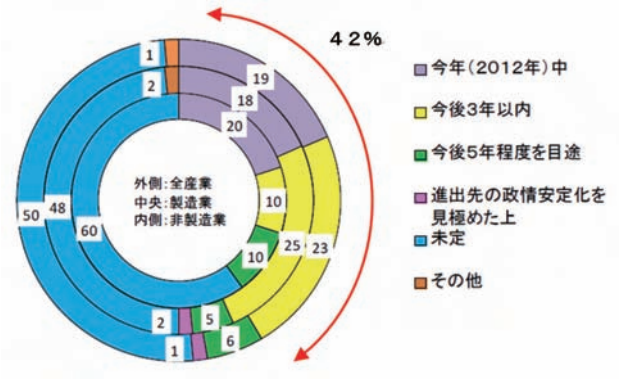


図２　今後の海外進出時期

出典：ぶぎん地域経済研究所「埼玉県内企業海外進出状況調査」（平成 24 年８月）

企業が海外進出することについては、国内産業の空洞化につながるのではないかと懸念する声があります。

しかし、平成 24 年８月に実施された日本政策金融公庫の調査によると、海外展開している企業の方が国内の従業者数を増やしている上、国内事業の売上高も増加傾向にあります。

さらに新興国への進出で上げた利益を国内での研究開発に還元することで、新規雇用が生まれるなどのメリットも期待できることから、県としても企業の海外進出をしっかりと支援していきたいと考えています。

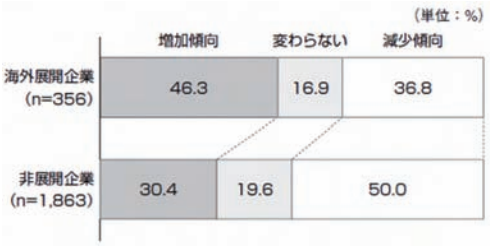


図３　最近３年間の国内事業の売上高

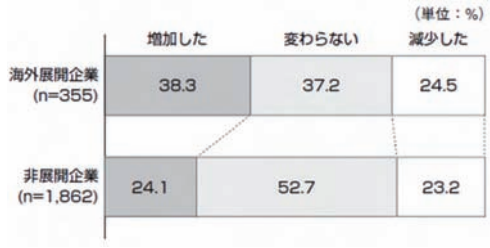


図４　３年前と比べた国内の従業員数

出典：日本政策金融公庫総合研究所調査「日本企業の海外展開とその影響に関するアンケート」（平成 24 年８月）

3　国内相談体制

埼玉県内では、埼玉県産業振興公社が海外進出に関する相談窓口となり、貿易投資相談やセミナーなどを実施しています。

海外への進出には様々なリスクに対する十分な準備が必要です。経験豊富なアドバイザーが、ジェトロなどの支援機関と連携し、幅広い視点からアドバイスを行っています。

（※埼玉県産業振興公社海外ビジネス支援グループ
電話：048 － 647 － 4156）

4　中国ビジネス支援

2010 年に GDP で世界第 2 位となり、なお高い経済成長を続ける中国には、県内企業が最も多く進出しており、今後進出を希望している企業も少なくありません。

このため県では平成 22 年 11 月、上海ビジネスサポートセンターを設置しました。

センターは虹橋空港や上海総領事館に近い虹橋地区にあり、運営を受託した民間企業によって 1 名のアドバイザーと 2 名のアシスタントが配置されています。

業務は貿易・投資相談、現地情報提供、展示会出展支援、商談設定・同行、取引先発掘・紹介などで、こうしたサービスを県内企業に対して無料で行っています。

また、現地人材発掘・紹介、企業信用調査、営業代行、翻訳サービス、トラブル対応などについては現地の専門家を紹介しています。

開設から平成 25 年 8 月末まで 2 年 10 ヵ月間の実績は、貿易投資相談件数が 999 件、現地法人の設立や商談成立といった成約件数は 30 件となっています。相談内容は、例えば「商品を中国で販売するにはどのようにしたらよいか」や、「専門的な知識を持つ人材をどのように確保したらよいか」など多岐にわたりますが、1 件 1 件丁寧に対応することを心がけています。

＊センターへの御相談は、まず、埼玉県産業振興公社へ御連絡をお願いします。

5　アセアンビジネス支援

近年、アセアン地域は海外製造拠点としてのみならず、約 6 億人を擁する有望な市場として、ますます注目を集めています。

この地域でのビジネスを支援するため、埼玉県では平成 24 年 8 月 20 日、ベトナム・ハノイにアセアンビジネスサポートデスクを設置しました。専任のアドバイザーが貿易・投資相談、現地情報の提供、展示会の出展支援、商談の予約取り付けや同行、さらには取引先の発掘・紹介や現地専門家の紹介といったサービスを無料で提供します。

また、ベトナム・ホーチミンとタイ・バンコクにはコーディネーターを配置しています。コーディネーターは貿易・投資相談、現地情報提供、取引先発掘・紹介及び現地専門家の紹介を無料で実施しています。

＊デスク・コーディネーターへの御相談は、まず、埼玉県産業振興公社へ御連絡をお願いします。

今年 8 月には、県内企業のビジネス支援体制の強化を目的として、埼玉県アセアン訪問団がベトナムとタイを訪問しました。

ベトナムでは上田埼玉県知事がブイ・クアン・ビン計画投資大臣と会談し、昨年締結した覚書に基づき、計画投資省内に県内企業専用のサポート窓口である「埼玉デスク」（仮称）を開設することで合意しました。これにより県内企業に対してさらに手厚い支援が可能になります。

タイでは、上田埼玉県知事とプラスート工業大臣との間で「相互協力に関する覚書」を締結しました。今後はこの協定に基づき、政府間の経済交流を進めていきます。

またタイでは、バンコク首都圏の交通渋滞の緩和に協力するため、「タイ交通渋滞対策セミナー」を開催し、県内企業の技術をアピールしました。社会インフラ事業を支えるノウハウを持つ地方自治体として、今後もこのようなセールスを進めていきたいと考えています。

6　展示会・商談会出展支援

県内企業の優れた技術を海外企業に紹介し、ビジネスのチャンスを作るためには、海外で行われる展示会に出展したり、商談会を開催して海外企業と個別に商談する方法が有効です。

そこで本県では、医療機器など今後成長が期待される分野において、海外で行われる展示会や商談会に出展する企業を募集し、これに専門家が同行してアドバイスを行ったり、必要な経費の一部を補助するなどの支援を行っています。

このような取組の結果、県内企業が外国企業から受注を受けるなどの成果が出始めています。

7　ネットワークづくり

県内企業が外国でビジネスを行う際、先行して進出している企業のノウハウは非常に参考になる上、企業同士が知り合うことはビジネスチャンスの創出にもつながります。

そこで県では、中国・ベトナム・タイの 3 か国において、埼玉県独自のネットワークづくりを進めています。

現地の日系企業に加え、日本大使館、ジェトロ等の支援機関や現地政府にもネットワークに御参加いただいています。今後はより多くの企業や関係機関に御参加いただくよう働きかけ、県内企業のビジネスを更にバックアップする体制づくりを進めていきます。

8　結びに

これまで他国との通商政策は国が中心となって行われてきました。しかし、グローバル化が進展する中で国際競争力を高め、経済を強化するためには、地方自治体自らが主体的に取り組む、言わば「通商産業政策の地方分権化」が必要です。

埼玉県では、県内の雇用確保や県経済の活性化のために、今後も埼玉県産業振興公社、上海ビジネスサポートセンターやアセアンビジネスサポートデスク、またタイ・ベトナムのビジネスコーディネーターが窓口となり、現地政府や関係機関のサポートを得ながら、海外市場にチャレンジしようとしている県内企業をしっかり支援していきます。

愛知県における中小企業の海外展開支援について

愛知県産業労働部産業立地通商課

1．はじめに

愛知県は、これまで、自動車、航空宇宙を始め、工作機械、繊維、セラミックスなど、製造業を中心に発展してまいりました。製造品出荷額等は 35 年連続で全国第一位であり、我が国における「モノづくりの中枢拠点」として大きな役割を果たしています。

多くの県内企業が、早くから海外に生産拠点を有しており、円高が急速に進んだ 1980 年代以降は、国内での展開に加え、積極的にアジアに進出し、広く世界を舞台に国際分業体制の構築を図っています。

また、2000 年以降、アジア諸国が著しい経済成長を示す中、その需要の高まりを背景に、多くの企業が、現地生産を拡大しており、中小企業も、取引先の求めに応じて、新たに海外進出しています。

本県としては、アジアの成長を取り込むことが企業の成長や地域経済の発展につながるとの認識の下、海外展開を図ろうとする中小企業を積極的に支援しています。

2．県内企業の海外進出の現状

2012 年末現在、海外に進出している県内企業は 724 社（うち中小企業：517 社）、拠点数は 3,525 拠点（うち中小企業：1,128 拠点）となっています。

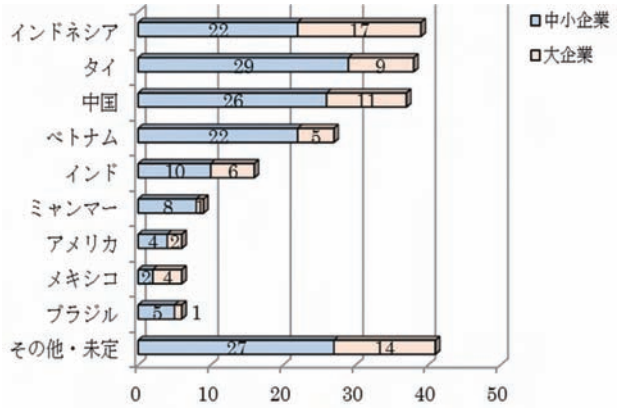
進出先・地域別企業数・拠点数

国・地域		企業数（社）	拠点数（件）	構成比％
アジア		1,404	2,247	63.7%
	インドネシア	117	153	4.3%
	シンガポール	58	73	2.1%
	タイ	235	346	9.8%
	ベトナム	85	107	3.0%
	マレーシア	51	70	2.0%
	韓国	71	86	2.4%
	台湾	87	108	3.1%
	中国	506	1,045	29.6%
	香港	88	101	2.9%
	インド	55	88	2.5%
オセアニア		47	84	2.4%
ヨーロッパ		343	481	13.6%
北米		259	525	14.9%
	アメリカ	223	472	13.4%
中南米		91	126	3.6%
中近東		28	31	0.9%
アフリカ		23	31	0.9%
総計		2,195	3,525	100.0%

※現進出企業は 724 社であるが、1 社で複数の国に進出している場合があるため、2,195 社は延数。

出典：「2012 年における愛知県内企業の海外事業活動」（（公財）あいち産業振興機構）

今後の進出先検討国



出典：「2012 年における愛知県内企業の海外事業活動」（（公財）あいち産業振興機構）

その６割以上がアジア地域に設置されており、その主な進出先は、中国、タイ、インドネシア、台湾、ベトナムなどです。

また、「今後の進出先検討国」に関するアンケートでは、中国への進出を検討する企業が大きく減少する一方、インドネシア、タイ、ベトナムなどアセアン諸国への進出ニーズが高くなっています。

こうした状況を受けて、県では、国内における相談・情報提供、海外販路開拓支援、海外拠点における支援等に積極的に取り組んでいます。

3．県内企業に対する海外進出支援

（１）国内での相談・情報提供の強化

国際ビジネス展開に関する情報の提供や専門的な相談については、（独）日本貿易振興機構名古屋貿易情報センターが、投資貿易相談、国際ビジネス情報収集・提供、セミナーの開催などを実施しているほか、本県の中小企業支援のワンストップサービス機関である（公財）あいち産業振興機構でも中小企業の相談・情報提供を行っています。

（公財）あいち産業振興機構では、2011 年から海外ビジネスに係る支援機関が一堂に会し、海外販路開拓や海外進出を計画している企業からの各種相談に応じる「ナビゲーション相談会」を実施しており、昨年度は、外国政府投資誘致機関や国内支援機関等 24 団体がブース出展し、165 名の来場者、190 件の相談がありました。

また、昨年度からは、専門家が海外取引・展開に直結する実務的な個別支援を継続的に行い海外展開をお手伝いする「海外ビジネスハンズオン支援事業」を実施しています。

（2）海外見本市への出展支援

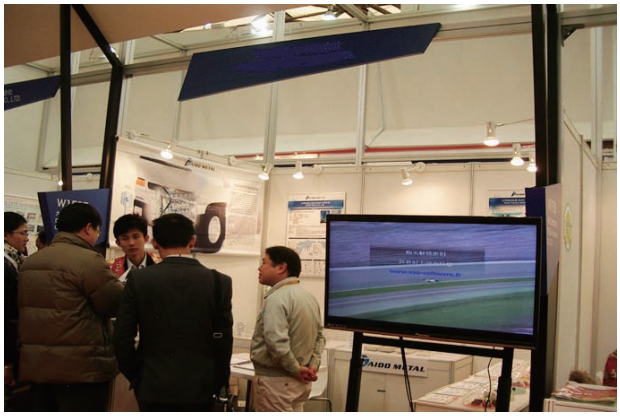
本県では、海外販路拡大を目指す企業の活動を促進するため、ジェトロ等と連携し、海外見本市への出展支援も行っています。

2006 年以降、「中国国際工業博覧会」や「日中ものづくり商談会」、「オートメカニカ上海」など、中国で開催される見本市に愛知県ブースを出展しました。また、農林水産部と共に上海の百貨店において食料品や地場産品の展示即売会「愛知フェア」を開催し、知事自ら売り込みも行いました。今年度も 11 月に香港そごうで開催する予定です。

これら中国での展示会においては、専門マネージャーによる商談支援も併せて行っています。

さらに、アセアン地域では、ベトナムの「MTA ベトナム」に出展したほか、今年度はじめて、インドネシア・ジャカルタで開催予定の「マニュファクチュアリングインドネシア 2013」に出展することとしています。

2006 年以降の県が出展支援をした企業数は約 200 社で、出展企業からは、「県内企業が愛知ブースとしてまとまって出展することで効果的に PR ができた。」との感想が多数寄せられました。



「オートメカニカ上海」での商談の様子

（3）サポートデスク・海外産業情報センターの活用

本県では、県内企業のアジアへの積極的な進出状況を踏まえ、特に進出企業の多い中国、アセアンの中で多くの企業の進出が見込まれるベトナムとの経済交流拡大を目指し、2008 年に中国江蘇省、ベトナム計画投資省との間で経済連携協定を締結しました。

この協定に基づき、中国江蘇省及びベトナムに「愛知県サポートデスク」を設置しており、中国江蘇省では伊藤忠商事、ベトナムでは計画投資省外国投資庁に運営業務の委託をしています。

サポートデスクでは、本県からの進出企業の相談に対応し、要望を相手国政府に伝えるとともに、定期的に進出企業との意見交換会を実施し、企業が抱える問題や要望を把握するとともに、進出企業間のネットワークづくりを促進しています。これまでに、中国江蘇省では 15 回、ベトナムでは 19 回、意見交換会を開催しました。

ベトナムでは、計画投資省始め進出企業の関心が高い分野を所管する政府関係者にも毎回出席していただいており、出席企業からは、「意見交換会は、ベトナム政府側と直接意見交換ができる貴重な機会であり、県内進出企業関係者と交流を深めることもできるので、これからも続けて欲しい。」との声が寄せられています。ベトナム政府も、この成果を高く評価しており、「愛知モデル」と呼んでいます。

ベトナムで開催している進出企業意見交換会の様子

また、本県では、パリ、サンフランシスコ、上海の３地域に海外産業情報センターを設置していますが、アジアの重要性が高まる中、昨年度、海外産業情報センターの在り方について見直しを行いました。その結果、企業の進出先として注目を集めているアセアンにおける支援機能を強化するため、上海産業情報センターに加えて、新たにタイのバンコクに東南アジアを所管する海外産業情報センターを開設（パリ、サンフランシスコの各センターは順次廃止）することを決め、来年４月の開設に向けて準備を進めています。

4．結び

今後も、経済成長著しいアセアンを中心に、アジア諸国への進出・販路拡大等を目指す県内中小企業の支援ニーズが高まることが予想されます。

本県としては、経済連携の推進を通じて、県内企業が安心して現地で活動できるようなビジネス環境づくりを行うことが重要であると考えており、ベトナム・中国江蘇省に次ぐ新たなアジアの国・地域との経済連携を視野に入れて検討を進めています。

また、中小企業が円滑に海外展開できるよう国際ビジネスに係るワンストップ国内支援拠点を整備する予定であり、国内外の支援体制を更に強化してまいります。

「“総合医+いくつかの専門医”として、へき地医療に取り組む」

京丹後市立久美浜病院・内科　田儀 英昭（京都府）

京丹後市は、南北に細長い京都府の最北端、日本海に面した風光明媚な場所に位置し、約 35km 四方の面積の中に約 60,000 人が生活している。私の勤務する市立久美浜病院（一般 110 床）は市西端に位置し、２次救急を含めた市西部の地域医療を担っている。平成 16 年より新医師臨床研修制度となってから、大学医局からの医師派遣が乏しくなり、京都市内から約 150km 離れた私たちの病院も外科は常勤医減となった。内科は幸い、大きな増減無く６名程度を維持しているが大学医局からの派遣は以前の５人から３人へ減少し、自治医大卒業生や医局以外の独自ルートに頼っているのが現状である。

７年前、このリポートで専門性をもった総合医として内科でも何かの専門性を有しながら、他の分野についても広く、可能なら深く診ることでへき地医療を支えていることを報告した。この間に総合医の議論が深まり、昨年、厚生労働省から 19 番目の専門医として総合診療医が加えられることとなった。総合診療医とは総合的な診療能力を有し、必要に応じて臓器別の専門医へ適切に橋渡しするのが役割とされている。

私たちの総合医としての取組は、その定義とは少し異なり、「総合医＋いくつかの専門医」を一人でこなすものとなっている。通常、当院の内科医は内科全般にわたって診療を行い、臓器別の外来とはしていない。患者さんに一朝、事ある場合、私たちの病院では高次病院との緊密な連携の下、高次病院の臓器別専門医へ全て橋渡しするのではなく、私たちでできる治療は高いレベルで完結することを目指している。それも、主治医が中心となって、どの分野についても可能な限り自ら対応するのが特色である。例えば、かかりつけの患者さんが吐血すれば、可能なら主治医自ら内視鏡を持ち、止血処置に当たる。また、患者さんが胸痛で運ばれ、心筋梗塞などの緊急を要する虚血性心疾患が疑われる場合も、当院で対応可能と判断されれば自ら心臓カテーテル検査に参加し、可能ならば冠動脈形成術（風船治療）を施行する。内科医は、内科全般のみならず、循環器や消化器、呼吸器など臓器別の得意分野を他の高次病院での研修等で研鑽し、最低一つは持つようにしている。そして専門分野外については他の専門性を有する内科医と協力して、専門的な治療を当院で完結できるように取り組んでいる。

患者さんは、どんな疾患であれ自宅の近くで医療を受けたいと望んでいることが多い。もちろん、当院の規模で対応できない疾患は高次病院へ転送が必要となる。しかし当地では高次病院への紹介も移動時間がかかり、積雪のある冬場などは移動が困難となることもある。当院で治療が完結できれば、患者さんや家族の移動負担が少なくて済む。また、高次病院の負担軽減にもつながる。「総合医＋いくつかの専門医」として一人の患者さん全体を診られるというのが、専門性の習得などに大変な努力を要することではあるが「先生なら何でも診てくれる」という患者さんからの信頼にもつながる。医師としてやりがいを感じる瞬間であり、地域医療を続けたいという原動力になっている。そして、幅広く深い総合的な医療の経験を積むべく、京都市内の大病院からも３－６年目の医師が研修に来てくれるようになった。

私たちのような小病院が、心臓カテーテルや内視鏡治療など高次病院で行うべき領域にまで踏み込むのは、総合医と専門医の棲み分けを図ろうとする流れに逆行しているのかも知れないが、少人数の医師でも高次病院にできるだけ依存せず地域医療を守っている一つの形として、改めて報告する。

Computerization Local Authorities

地方自治情報化推進フェア2013

ICTでつなぐ地域社会

電子自治体推進セミナー

～ 電子行政総合展 ～

2013年11月13日(水)・14日(木) 入場無料

東京ビッグサイト 西展示棟 西3・4ホール 9:30～17:00

自治体関係者必見

大手ベンダーを始め、72社の情報関係企業の行政情報システムが一堂に集結！
（ほか、正会員から徳島県の出展、特別出展として韓国地域情報開発院の出展も決定！）
行政のICT推進に向けた特別講演やセミナー等多数実施！

情報システム展示会	出展団体74団体　利用者視点と費用対効果の視点に立った先進的な情報システムや利便・効率・活力を実感できる電子自治体の実現に資する最新システムの展示とデモンストレーション
講演会	特別講演Ⅰ 基調講演　「社会保障・税番号制度における情報提供の仕組みとその活用 ～ システムが変える住民サービス ～」 東京工業大学　大山 永昭 教授
	特別講演Ⅰ 対談　「自治体の疑問に答える」 東京工業大学　大山 永昭 教授 ／ 佐賀県特別顧問　川島 宏一 氏
	特別講演Ⅱ　「ICTを活用した新たな街づくり実現のために　～自治体情報化への首長の役割～」 モデレータ：東京大学大学院情報学環　須藤　修 教授 パネリスト：つくば市長　市原 健一 氏 三鷹市長　清原 慶子 氏 富山市長　森　雅志 氏 総務省情報通信国際戦略局情報通信政策課長　大橋 秀行 氏
トピックスセミナー	地方公共団体の情報システム活用事例等を中心としたセミナー
研究開発成果説明会	平成24年度に当センターが実施した調査研究事業と会員団体が行った共同研究成果の説明
オープンセミナー	電子自治体の現状や課題等について実務経験者等によるセミナー
LGWAN-ASP参入セミナー	総合行政ネットワーク(LGWAN)を活用したアプリケーションサービスについてのセミナー
ベンダープレゼンテーション	参加44社 50回開催　情報システム展示会出展社が、電子自治体への取り組み等についての解説や導入事例等の説明を行うプレゼンテーション

関連行事(地方公共団体情報化職員等表彰)：11月13日 東京ベイ有明ワシントンホテル

主催 (財)地方自治情報センター

後援 総務省／全国知事会／全国都道府県議会議長会／全国市長会／全国市議会議長会／全国町村会／全国町村議会議長会／(財)日本宝くじ協会／(財)地域創造／(一財)地域活性化センター／(財)自治体国際化協会／(財)自治体衛星通信機構／(一社)行政情報システム研究所

事前登録・各種申込先

LASDEC　検索

https://www.lasdec.or.jp/evnt/2013/

都道府県だより

2013年10月

北海道

Hokkaido

北海道開拓の村特別展「開拓使・麦酒」～公共施設における民間企業との連携～

北海道開拓の村は、明治から昭和初期にかけて建設された道内各地の建造物を移築し、当時の生活様式や催しと共に再現する野外博物館として、昭和58年に開村して以来、本道の歴史文化を内外に紹介してきました。開村30周年を迎える今年は様々な記念行事を実施していますが、8月24日から11月4日にかけて開催している特別展「開拓使･麦酒」は､サッポログループとの協働による取組です。

開拓使は明治2年に設置され、移住推進、インフラ整備、殖産興業など、本道の歴史に大きな影響を与えました。開拓使の30種以上あった官営工場の中で、唯一現在へと系譜が続いているサッポロビールの歴史を軸に、開拓期から現在までの産業や生活の移り変わりなどを紹介しています。

旧開拓使工業局庁舎（平成25年8月、国の重要文化財に指定）を始めとした村内の歴史的建造物を活用し、サッポログループから提供を受けた資料を中心とした展示や、「おいしいビールの飲み方講座」などの公開講座は、多くの利用者でにぎわっています。

旧開拓使工業局庁舎

北海道、サッポロビール（株）、開拓の村ボランティアの会、指定管理者等によるテープカット

道では、道と民間企業等それぞれが有する資源を結び付けることで、道内地域や経済の活性化、公共サービスの充実を図るため、様々な政策分野で民間企業等から提案を募集し、協働事業に取り組んでいます。今後も、民間企業等と協働で、公共施設の利用促進につなげるなど、様々な取組を行っていきたいと思います。

お問合せ

北海道環境生活部くらし安全局文化・スポーツ課
TEL 011-204-5215
北海道開拓の村
札幌市厚別区厚別町小野幌50番地1
TEL 011-898-2692
（指定管理者：一般財団法人北海道開拓の村）
※ホームページで記念行事を詳しく紹介しています。
HP http://www.kaitaku.or.jp/

青森県

Aomori

「λ（ラムダ）プロジェクト」展開中
～津軽海峡交流圏形成に向けて～

平成27年度末、北海道新幹線新青森・新函館（仮称）間が開業し、青森県にも津軽半島の今別町に、本州最北端の新幹線駅となる奥津軽（仮称）駅が設置されます。

現在、新青森・函館間は津軽海峡線で約2時間ですが、新幹線開業時には新青森・新函館間が約1時間、開業2年後には最速40分で結ばれます。時間距離が大きく短縮することにより、観光・ビジネスを始め、医療、教育など様々な分野において道南との交流の活発化が見込まれることから、青森県では開業を契機として「λ（ラムダ）プロジェクト」を進めています。

「λ（ラムダ）プロジェクト」とは、青森県全域と函館を中心とする道南地域とを一つの圏域と捉える「津軽海峡交流圏」の形成を進め、圏域内の交流の活発化を図るとともに、圏域外からの交流人口の拡大と訪問者の滞在時間の質的・量的拡大を目指す取組です。プロジェクト名は、新函館（仮称）駅から新青森駅を通って八戸駅への新幹線のルートと、新青森駅から弘前駅への奥羽本線のルートの形が、ギリシャ文字のλ（ラムダ）に見立てることができることに由来します。

この「λ（ラムダ）プロジェクト」を推進するエンジン役となるのが、現場で様々な成功事例を生み出している民間の方々で構成する「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」です。この作戦会議のメンバーは、新しいユニークな視点で交流圏形成に向けたアイディアを提案するとともに、自らのフィールドで津軽海峡交流圏の形成に向けた活動に取り組んでいます。

北海道新幹線開業は、青森県にとって3度目の新幹線開業です。これまでの新幹線開業の経験を踏まえながら、新幹線はもとより、フェリー、航空路線など、様々な交通モードを活用しつつ、道南地域と有機的に連携した「津軽海峡交流圏」の形成を進め、将来的にはこの圏域が一つの経済圏に成長することを期待しています。

お問合せ
青森県交通政策課
TEL 017-734-9152
HP http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kikaku/kotsu/ramuda.html

ラムダ作戦会議　検索

都道府県だより　2013年10月

秋田県

Akita

地域コミュニティがつながる仕組づくり
～あきた元気ムラ大交流会～

秋田県では、集落の自立と活性化を進めるため、県と市町村の職員が一緒に集落を訪問して住民から直接地域のお宝や課題を聞き取る「全県大規模集落点検」を4年前に実施し、以来、現在まで住民が主体となった地域課題の解決に向けた対話と実践の場づくりを重ねてきました。

このポイントは企業等に調査を委託せず、県と市町村の職員が集落と直接つながり、自立的な活動の舞台づくりに取り組んだ点にあります。

その結果、地域毎の課題や様々なテーマに応じ、218集落が52地区のまとまりで住民主体の地域づくりである「元気ムラ活動」を展開しています。

このような元気ムラが、テーマに応じて連携の相手を探し、戦略的に横のつながりで自治の動きを広げるための仕組づくりとして、去る9月8日、秋田ふるさと村（横手市）を会場に「あきた元気ムラ大交流会」を開催しました。

大交流会では、秋田県内17市町村58地区の約170集落と青森県、岩手県の集落を合わせ、約430人の参加者による集落と集落、集落と企業等の交流

を実施しました。「自主防災」「除雪支援」「地域資源と収入源づくり」「健康づくり」をテーマにした取組発表や意見交換のほか、集落が持ち寄った御自慢の工芸品や伝統食を囲んでの交流が行われ、参加者から「交流により地域を見つめ直すことができた」「他の集落と連携したい」など様々な感想が聞かれました。

今後は、この大交流会をきっかけに、集落等が住民自治の組織として行う地域課題解決への取組やそれに向けた他の集落・企業等との連携を、多様な「地域コミュニティネットワークづくり」によりサポートしていきます。

お問合せ
秋田県活力ある農村集落づくり支援室
TEL 018-860-1215

元気ムラ　検索

岩手県

Iwate

米国における「復興支援への感謝と復興の取組を発信する行事」について

岩手県では、８月 26 日に米国ニューヨークにおいて、「トモダチでありがとう～東日本大震災津波岩手県復興報告～」と題し、知事が復興支援の御礼と復興の取組を発信する行事を行いました。

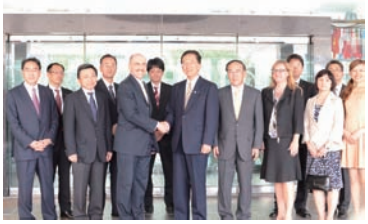
【多様な参加者】

この行事には、トモダチ作戦・トモダチ構想で御支援いただいた米国政府のほか、世界各国の外交官、米日カウンシルなど日米交流組織、県人会から個人まで、復興支援をいただいた方々など約 250 人に出席いただき、参加者の方々の復興への関心の高さを実感しました。

中には岩手県に義捐金を送ってくださった８歳の米国少女のファミリーもいらっしゃいました。

【達増知事が英語で感謝のスピーチ】

行事では、達増知事が感謝を述べるとともに、「国際社会からの支援に応えるためにも、震災を機に生まれた多様なつながりを深め復興につなげていきたい」などと英語でスピーチしました。



【米国政府等を表敬】

８月 27 日には、ワシントンにおいて、知事が米国務省ジェームス・ズムワルト国務次官補代理、国防総省エイミー・シーライト国防長官上席顧問、米日カウンシルのアイリーン・ヒラノ会長を表敬し、支援への感謝と交流の継続をお願いしました。

ズムワルト氏は「復興に非常に関心がある。復興していく姿に我々も勇気づけられる」と語り、ヒラノ氏は「米国の若者ももっと日本へ派遣し、交流を深めていきたい」と人材育成支援の継続について言及されました。

【多様なつながりで「開かれた復興」を】

復興のためには、地元の底力に加え、多様なつながりの継続も重要です。

今後も多様なつながりを継続しながら、復興を成し遂げていく、「開かれた復興」を推進していきたいと考えています。

お問合せ
岩手県秘書広報室広聴広報課
TEL 019-629-5283

山形県

Yamagata

新規漁業就業者総合支援対策事業について

全国的にも漁業就業者の減少が問題となっていますが、山形県も例外ではなく、平成 20 年現在で漁業就業者数は 10 年間で３割減少した上に就業者の 67%が 60 歳以上という高齢化が著しい現状にあります。漁業生産の確保のためにも新規漁業就業者の確保が急務となっています。

その対策として、これまでも、県、市町、県漁業協同組合が連携して体験漁業や短期研修など就業への動機付けを行うとともに、就業情報の提供や技術習得の機会としての各種研修事業を行ってきました。さらに今年度からは、漁業就業のための研修を受講している間の生活支援を行う国の「青年就業準備給付金制度」が創設され、意欲ある若者が漁業に新規参入できるよう、支援が充実しました。

山形県では、この給付金の受給要件に合った研修事業の枠組みをいち早く構築するとともに、国の支援対象とはならない 45 歳以上の方を対象とした、県独自の給付金制度を創設することで、幅広い年齢の方が就業できる体制を全国で初めて整備しました。６月に研修生を募集し、７月から２名の研修生を受け入れて研修をスタートしています。研修生は、約１年間のカリキュラムを通して、山形県で漁業に就業するために必要となる基本的な技術や知識の習得を目指し、座学研修のほか県の試験調査船や定置網などを使った実地研修を行っています。

漁業就業準備研修の様子
（底びき網漁船で作業を学ぶ研修生）

このほかにも、収入が不安定で、漁業共済制度に加入できない就業後３年以内の新規漁業者に対し、減収補てん等を実施するなど、漁業経営に踏み出す一歩を後押しする支援制度を創設しました。

漁業技術の修得から就業初期の経営対策まで総合的な支援対策を実施し、山形県の漁業の将来を担う人材の安定的な確保に努めるなどして、平成 28 年度本県で開催予定の「第 36 回全国豊かな海づくり大会」に向けて、本県水産業のさらなる発展を目指します。

宮城県

Miyagi

９月から他都道府県広報紙との紙面交換を行っています

東日本大震災から２年半が経過しました。各都道府県（以下、「他県等」）の皆様には、物資の支援、職員派遣、がれき受入れ、被災者支援プロジェクトなど多大な御支援をいただき、個人の皆様にも、義援金、ボランティア活動など多くの御支援をいただいているところです。おかげさまで本県は復興に向けて着実に歩みを進めております。あらためて御礼申し上げます。

本県の震災復興計画において、本年度は「復旧期」の最終年度に当たり、来年度から新たなステージである「再生期」へと進むことになります。一方で、資材不足、人手不足による入札不調や事業の遅れなどの課題が明らかになってきたほか、県外において大震災に関する報道等が減少するなど、震災の記憶の風化も懸念されています。

そこで、この度、県外の皆様に対して支援への感謝の気持ちを表すこと、震災の記憶の風化防止を図ることなどを目的に、他県等の広報紙に本県の情報を掲載していただく、紙面交換の取組を開始しました。他県等からは、本県広報紙に、応援メッセージや観光・食に関する情報などを掲載していただいています。

大震災を経てつながった多くの絆にあらためて感謝し、お互いが理解を深めながら交流を続けていけるよう、紙面交換の取組を継続していきたいと考えております。是非一度「みやぎ県政だより」紙面交換のページ『絆』コーナーを御覧ください。

※紙面交換を御検討の際は、是非、お声がけください。

お問合せ
宮城県広報課広報班
TEL 022-211-2283
HP http://www.pref.miyagi.jp/site/kenseidayori/kensei-2013-09-kizuna.html

都道府県だより　2013年10月

福島県

Fukushima

「『ふくしまから　はじめよう。』海に浮かぶ風力発電所」～福島復興・浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業～

福島県沖（広野町・楢葉町沖約20km）にて、再生可能エネルギーの要である風力発電の実証研究が始まりました。

この事業は、風力発電のエネルギー源である風車と変電設備を実証海域に浮かべる、いわゆる「浮体式」と呼ばれるものです。

浮体式風車とキビタン
(H25.7.13 小名浜港にて)

浮体式の変電所１基、2,000kWの風車１基に加え、全高約200mにも及ぶ7,000kW ２基の浮体式風車計３基での実証研究が計画されており、規模としては世界最大の「浮体式洋上風力発電所」となります。

ふくしまから新たな流れを創る「ふくしまからはじめよう。プロジェクト」のシンボル事業として、浮体式風車は「ふくしま未来」、変電所には「ふくしま絆」という名が付けられています。国主体の下、丸紅株式会社、東京大学、清水建設株式会社を始めとする１大学10社から構成される「福島洋上風力コンソーシアム」により、次世代風力発電の技術開発とも言える事業を実施します。

浮体式変電設備
ふくしま絆

浮体式風車
ふくしま未来

事業では、浮体式洋上風力発電について、その経済性、安全性などのほか、漁業との共存策など、様々な観点から事業の実現性について、検証していくこととしています。

また、広く事業の意義を知っていただくため、模型やパネルなどを展示する「福島洋上風力交流センター」が福島県いわき市の観光物産センター「いわき・ら・ら・ミュウ」内に設置されました。

来県の際は、是非、お立ち寄りください。

お問合せ
福島県商工労働部産業創出課
TEL 024-521-8286

福島洋上風力コンソーシアム　検索

新潟県

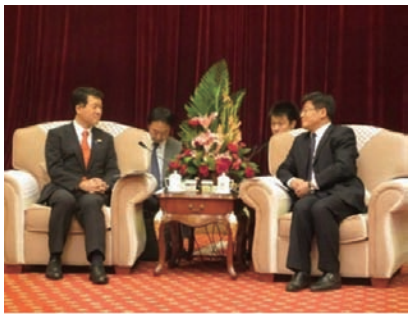
Niigata

黒龍江省との友好提携 30 周年 ～友好交流から経済交流へ～

今年、新潟県は中国黒龍江省と友好県省提携 30 周年を迎えました。

８月 21 日～ 23 日、知事を団長とした訪問団が黒龍江省に赴き、これまでの様々な交流を振り返るとともに、今後も、経済分野等も含めた幅広い分野での相互交流に取り組んでいくことを確認しました。

訪問時、黒龍江省では数十年に一度の洪水が発生し、省政府や関係者が一丸となって洪水対応に取り組んでいるところであったことから、泉田知事より、県民を代表してお見舞いをお伝えするとともに見舞金を贈呈しました。



孫東生副省長との会見

今回の訪問では、県内の企業・団体と黒龍江省の企業との間でビジネスマッチングを実施し、活発な商談を行いました。また、

企業マッチングの状況

日本料理店内の飾り付け

省内の日本料理店と連携し、新潟県の食の魅力の一端を紹介するとともに、店内にタンブラー等の県産品を展示紹介する「新潟フェア」を開催しました。加えて、新エネルギー、食品加工、医療等の新たな分野での交流に関する意見交換等を通じ、更なる経済交流を促進する契機になったと考えています。

今後ともこうした地方政府レベルでの交流拡大を着実に図りながら、本県と中国がお互いに利益を享受できるような関係を築いていきたいと考えています。

お問合せ
新潟県知事政策局国際課
TEL 025-280-5962

東京都

Tokyo

２０２０年オリンピック・パラリンピック開催都市は東京に決定　～応援ありがとうございました！～

９月７日、ブエノスアイレスで開催された IOC 総会において、東京が２０２０年夏季オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市に選定されました。

開催決定は、政府、国会、全国の自治体、議会、経済界、スポーツ界、そして日本開催を希望する国民の皆様が、まさにオールジャパンの体制で招致活動に取り組んだ成果です。皆様方の御支援・御協力に厚く御礼申し上げます。

２０２０年東京大会の開催は、未来を担う子供達に夢と希望を与え、被災地の復興を更に加速させ、日本に元気を取り戻すことができると考えています。

２０２０年東京大会を最高の大会とするため、今後も引き続き、皆様の御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

お問合せ
スポーツ振興局オリンピック・パラリンピック大会準備部
TEL 03-5388-2873

群馬県

Gunma

「ググっとぐんま観光キャンペーン」 今年は秋に開催中！

群馬県では、10月から12月まで「ググっとぐんま観光キャンペーン」を開催中です。

23年に実施した「群馬デスティネーションキャンペーン（群馬DC）」では、県内各地を訪れた多くの人に、群馬の新たな魅力を知ってもらうことができました。その「群馬DC」での取組を一過性のものとせず、温泉や自然、食など、群馬の魅力をPRするため、継続して実施している「ググっとぐんま観光キャンペーン」。今年は秋からの開催です。

群馬県は、首都圏から近く、草津・伊香保・水上・四万温泉を始めとした、数多くの名湯があります。この強みを生かし、キャンペーンに併せて作成した県観光情報誌「ググっとぐんま　秋特別号」では、「温泉入ってググっと10選」と題し、「心にググっとくる10のおすすめプラン」を提案しています。

プランでは、温泉旅行への「プラスワン」の楽しみ方として、「紅葉」はもちろん、「歴史遺産」「東国文化」「街歩き」など、群馬の魅力を存分に味わえるプランとなっています。

また130の施設で使える割引クーポンの提供や各地で実施されるスタンプラリーの紹介を通して、県内各地を周遊してもらうことを目指しています。

さらに、特徴的な取組として、26年の世界遺産への登録を目指す「富岡製糸場と絹産業遺産群」を広くPRしています。「富岡製糸場とぐんま周遊観光ガイドブック」を作成し県内の道の駅などで配布したり、富岡製糸場の工女をイメージした衣装を着たガイドが、様々なイベントに登場したりしています。

群馬県観光情報誌
「ググっとぐんま 秋特別号」表紙
※デジタルパンフレットでも御覧になれます

このほか、両毛地域や近隣県域である埼玉北部、長野東部、新潟南部の市町村などと連携したイベントなどを通じて、県境を越えた観光誘客を促進します。

キャンペーンでは、群馬での旅がより思い出深いものになるよう、各地域のボランティアガイドが、地元ならではの案内で「おもてなし」をします。

訪れた人に、心に「ググっと」くる感動を味わってもらえるよう、県を挙げておもてなしに努めます。

全国の皆さんのお越しをお待ちしています。

お問合せ
群馬県観光物産課
TEL 027-226-3385
FAX 027-223-1197
「ググっとぐんま」公式HP
http://gunma-dc.net/

都道府県だより 2013年10月

栃木県

Tochigi

「とちぎのヘルシーグルメ選手権」の受賞作品を決定しました

県民の健康づくりをサポートするとともに、地産地消や郷土の食について関心を持っていただくため、栃木県では「おいしさ」「健康」「地産地消」をキーワードとした料理を県民の皆様から広く募る「とちぎのヘルシーグルメ選手権」を開催しました。

選手権は、レストラン・飲食店のヘルシーメニューを募集する「飲食店部門」、社員食堂が提供する働き盛り向けメタボ予防メニューを募集する「社員食堂部門」、お弁当屋さんの健康づくり応援ヘルシー弁当を募集する「弁当部門」、とちぎの良いところを凝縮した一皿を県民から広く募集する「新たな郷土の食部門」の4部門で行われ、計627作品の応募がありました。

書類選考に続いて行われた2次審査では、応募者自らが制限時間1時間で実際に調理を行い（弁当部門はあらかじめ調理したものを搬入）、栄養や料理の専門家、有識者が味や見た目はもちろん、栄養バランスや独創性、地産地消などの観点から審査を実施。その結果、飲食店部門では宇都宮市の（株）全国チェーン竜鳳の「栃木のゆばと那須鶏のヘルシー鶏丼　他」を最優秀賞とするなど、各部門ごとに3点の受賞作品を決定しました。

飲食店部門 最優秀賞「栃木のゆばと那須鶏のヘルシー鶏丼 他」
鶏丼の鶏肉は焼かずに片栗粉をまぶしてゆでることで、塩分に頼らずに旨みを残す工夫がされています

新たな郷土の食部門 最優秀賞「米粉を使った塩トマトとトマトジャムのシフォンケーキ」
益子町の主婦の方による作品。栃木産のおいしいトマトを使用しています。炊飯器でも作れて、朝食にもおすすめ

また、10/19（土）、20（日）に栃木県庁で行われる「とちぎ“食と農”ふれあいフェア2013」では、受賞作品の販売や試食、レシピのパネル展示などが行われますので、この機会に、とちぎのヘルシーグルメを味わってみてはいかがでしょうか。

お問合せ
栃木県健康増進課
TEL 028-623-3094
※「とちぎ“食と農”ふれあいフェア2013」
http://www.pref.tochigi.lg.jp/g02/h25syokunoufair.html

茨城県

Ibaraki

筑波研究学園都市 50 周年記念「イノベーションフォーラム in つくば 2013」を開催

今年は筑波研究学園都市の建設が閣議で了承されてから､50年の節目の年に当たります｡これを記念し、茨城県では、つくば市や市内の研究機関等と連携して、様々な事業を実施しています。

その一環として、8月 20 日から 22 日にかけ、全国の高校生を対象に「世界はキミたちの手で変えられる!」をテーマに、「イノベーションフォーラム in つくば 2013」を開催しました。

初日は、定員を大きく上回る約 1,200 人の方に御参加いただき、本県にも縁が深い江崎玲於奈博士による基調講演のほか、ロボットスーツ HAL®の開発者である筑波大学の山海嘉之教授、人工衛星「はやぶさ」で有名な JAXA の川口淳一郎教授などの一流の科学者や、第一線で活躍している企業人による授業と共に、講師との交流会を行いました。2日目からは、参加者を 200 人に限定し、少人数のグループに分け、研究機関を訪問し、科学者からの課題に対する解答についてプレゼンテーションを行う機会等を設けました。

参加した高校生からは「科学技術の面白さ､楽しさ、可能性を知ることができた」などの感想が寄せられており、「科学の素晴らしさ」「イノベーションの大切さ」を学んでいただく良い機会を提供することができました。

茨城県では、今後も様々な機会を通じ、「科学技術創造立県いばらき」の推進、PR に努めて参ります。

開講式の模様

お問合せ

茨城県企画部科学技術振興課
TEL 029-301-2532

埼玉県

Saitama

アニメ・マンガの祭典 「アニ玉祭」を開催

県は 10 月 19 日と 20 日に大宮ソニックシティでアニメ・マンガの祭典、「アニ玉祭（アニメ・マンガまつり in 埼玉)」を開催します。

「らき☆すた」の久喜市鷲宮や「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」の秩父、「神様はじめました」の川越など現在でも約 50 の「アニメの聖地」を持つ埼玉県。

アニ玉祭ではこの観光資源の将来展望を語りあう「アニメ・マンガの聖地サミット」、コスプレコンテストや埼玉ゆかりのアニメ・マンガ作品展などイベントが盛りだくさん。ほかにも大宮にあるメイドカフェの出店、痛車（いたしゃ）やらき☆すた神輿の展示、アニメ上映やコンサートもありファンにはたまらないお祭りです。

埼玉県はアニ玉祭を皮切りに「アニメ・マンガ聖地化計画」を始動させ、持続的に地域の産業・観光・経済に波及効果のあるアニメ・マンガを活用していきます。日本最高峰はもちろんのこと世界が注目する聖地に埼玉県がなることを目指します。企業ともコラボレーションして商品開発やガイドブックの発行なども行っていきます。

アニ玉祭
アニメ・マンガまつりin埼玉
ソニックシティオープン25周年記念事業

魅力満載のアニメ・マンガの聖地「埼玉」に是非遊びにきてください！

お問合せ

埼玉県産業労働部観光課
TEL 048-830-3955
HP http://anitamasai.jp/

千葉県

Chiba

千葉の中小企業が開発した優秀で独創的な製品「千葉ものづくり認定製品」を紹介します

千葉県では、ものづくり産業のブランドイメージの向上と製品の販路開拓支援を目的に、県内中小企業が開発・製造する優れた製品や独創的な製品を「千葉ものづくり認定製品」として、これまで100製品を認定しています。

平成25年度1回目の公募（通算15回目）では、新たに6製品を認定しました。

例えば、「ナノパウダーメタル製理美容ハサミ」は、抜群の切れ味と耐久性とを兼ね備えた製品で、髪へのダメージがほとんどないことが特徴です。

また、「エンジン用排気ガス小型温度指示計」は、ギアレス式を採用し、高い耐振性能が求められるディーゼルエンジン用に開発された製品です。機械式であるため電池交換が不要であることも特徴の一つです。

今回認定を受けた企業の方々と森田知事

そのほか、いずれも独創的なアイデアや高度な技術が活かされた製品が認定されています。

これら千葉ものづくり認定製品の認定を受けた企業を始めとする千葉の優秀なものづくり企業が一堂に会した展示会「T-1 グランプリ」を11月25日（月）～26日（火）に幕張メッセにて開催いたします。是非会場にお越しいただき、千葉県の優れた製品を直接御覧ください。

なお、認定製品の概要は、下記「千葉ものづくり認定製品ホームページ」にて御覧いただけます。

ナノパウダーメタル製理美容ハサミ

エンジン用 排気ガス小型温度指示計

お問合せ

千葉県商工労働部産業振興課
TEL 043-223-2717
千葉ものづくり認定製品 HP
http://www.pref.chiba.lg.jp/sanshin/hanro/monozukuri/index.html

都道府県だより 2013年10月

神奈川県

Kanagawa

夏休みの夜に！「キングの塔」初の夜間庁舎公開を開催

神奈川県では、8月14日～16日の3日間、「キングの塔」の愛称で親しまれている県庁本庁舎の夜間公開を実施しました。

本庁舎は昭和3年に竣工した四代目の県庁舎で、創建85年を迎える神奈川県を代表する近代化遺産の一つです。平成8年に県内で初めて国の登録有形文化財に登録され、現在も行政庁舎として使用しています。

毎月2回程度、休日の10時から16時まで公開し、普段見ることのできない知事室、旧貴賓室、旧議場などを御覧いただいています。

今回、初めて平日夜間の17時から21時まで公開し、併せて様々なイベントを実施しました。

県立高校の生徒たちによる和太鼓の演奏は、その迫力で、連日、観客の皆さんを感動させました。若手職員が企画運営した「かながわ縁日」では、幅広い世代の方々にミニゲームを楽しんでいただきました。屋上ではビールなどの飲み物を用意して、横浜港の夜景を楽しんでいただき、好評を博しました。

最終日には、県警察音楽隊や中国獅子舞にも参加していただくとともに、本庁舎にデジタルアートを投影する「デジタル掛け軸」を点灯し、次々に移り変わる光の文様で幻想的に彩られた「キングの塔」を、多くの方に御覧いただきました。

こうした取組の結果、3日間で約8,000人という、多くの方に御来場いただきました。

公開中は本庁舎の歴史や装飾などの解説、案内、交通整理にも職員が従事して、全庁的な体制で運営を行いました。

今後も、本庁舎の公開を実施し、本庁舎を開かれた県庁のシンボルとして、県を身近に感じていただく取組を行っていきますので、皆様、「キングの塔」に是非お越しください。

山梨県

Yamanashi

新庁舎「山梨県防災新館」が完成

9月28日、県の新庁舎「山梨県防災新館」が完成・オープンしました。大規模災害発生時に県民の生命と財産を守る防災拠点としての役割を果たす防災新館には、災害関連部署を集約するとともに、高い耐震性能を確保し、屋上ヘリポートや非常時に対応する設備機器も設置しています。

この防災新館の大きな特徴は、甲府市中心街の活気やにぎわいの創出を目指し、地場産品や観光資源などのやまなしブランドを広く情報発信するとともに、人と人との交流を生み出す場として、1階に「やまなしプラザ」を整備したことです。

「やまなしプラザ」には、日本一の生産量を誇る山梨の地場産品・宝飾品の展示や加工技術の実演などを行う「山梨ジュエリーミュージアム」、県民の自主的な学習活動を支援する「生涯学習推進センター」、山梨ならではのこだわりを持った県産品を販売・提供する「まるごとやまなし館」と「オープンカフェ」、多目的に利用できるイベントスペース「オープンスクエア」と「県民ひろば」を備えています。

山梨県防災新館

多くの県民でにぎわった J1 ヴァンフォーレ甲府戦のパブリックビューイング

オープニングイベントでは、県産フルーツを使ったオリジナルスイーツの試食会や、J1 ヴァンフォーレ甲府戦のパブリックビューイングなどを行い、多くの県民でにぎわいました。これから、富士の国やまなし国文祭関連事業など、様々なイベントが予定されています。

今後、県と PFI 事業者が協力しながら「やまなしプラザ」各施設の特色を生かした運営を行い、より多くの県民に親しまれ、新たなにぎわいの創出が図られるよう取り組んでいきます。

お問合せ

山梨県総務部管財課
TEL 055-223-1326

静岡県

Shizuoka

みんないきいき！
～ふじのくにの健康長寿～

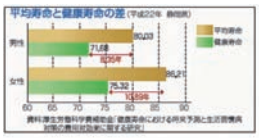
厚生労働省が昨年発表した「健康寿命」において、静岡県は女性が75.32歳（全国1位）、男性が71.68歳（全国2位）であり、本県が算出した男女計は73.53歳で全国1位となりました。

健康長寿日本一の理由としては、①地場の食材が豊富で食生活が豊か②いつもお茶をたくさん飲んでいる③県や市町が一体となって健康づくりや介護予防に積極的に取り組んできた④元気に働いている長寿者が多い⑤温暖な気候が穏やかな県民性を育んでいるという五つが挙げられます。

しかし、平均寿命と健康寿命の差は、男性8.35年、女性10.89年と開きがあります。介護を受けたり、寝たきりにならず、自立して健康に生活できる「健康寿命」を延ばすことが課題です。

そこで本県は、県民の皆さんがより元気で健康に暮らせるよう「ふじのくに健康長寿プロジェクト」を推進しています。このプロジェクトの具体的な取組である「ふじ33プログラム」と「健康マイレージ事業」の二つを紹介します。

（1）ふじ33（さんさん）プログラムの普及



働き盛り世代（40歳～64歳）を対象に、「運動」、「食生活」、「社会参加」のメニューを盛り込んだ県独自の健康長寿プログラムのことです。①3分野（運動、食生活、社会参加）を、②3人1組で③まずは3ヵ月実施をする内容のガイドブックを作成し、各市町や企業への普及・啓発を行っています。3人1組で行うため、お互いに励まし合いながら継続することができます。

（2）健康マイレージ事業の推進

運動や食事などの生活改善や健康診断の受診、健康講座やスポーツ教室、ボランティア活動など市町で決められた健康づくりメニューを行った住民が、飲食店などの協力店舗から特典を受けられる制度です。現在5市3町で実施しています。

今後、本県では、健康寿命の更なる延伸を目指して、ふじのくに健康長寿プロジェクトを推進していきます。

お問合せ

静岡県健康福祉部健康増進課
TEL 054-221-2779

長野県

Nagano

新そばの季節に新登場！「信州ひすいそば」がデビュー

“信濃では　月と仏と　おらがそば”と俳句に詠まれているとおり、信濃・信州・長野県と聞くと“そば”を思い浮かべる方も多いのではないでしょうか。

長野県は、そばの栽培条件に適していることから、良質のそばが生産されています。古くから「信州そば」として全国的に親しまれ、そばの生産量は全国２位となっており、長野県の特産物の一つです。

この秋、長野県の特産物であるそばに、「信州ひすいそば」が仲間入りします。

「信州ひすいそば」は、長野県野菜花き試験場が10年の歳月をかけて開発した新品種「長野Ｓ８号」の栽培や加工・販売に関する基準を定め、この基準を満たした長野県産そばの名称です。長野県では、「おいしい信州ふーど（風土）」大使の玉村豊男さんに名称を御提案いただき、商標登録を行いました。

「信州ひすいそば」は、10月にデビューし、皆様に味わっていただくことができるようになります。特徴は、“香り高く”、そして、その名のとおり“色鮮やか”なこと。玉村さんが、「信州の山々から流れ出る清らかな水。その水の瀬が光を浴びて輝く美しいひすい色を思い浮かべて、この緑を湛えた新しい信州そばの名前としました。」と語るように、丸抜き（そば殻を除いたそばの実）の色が他のそばの品種よりも濃い緑色をしています。

10月18日には「信州ひすいそば」のお披露目会を開催し、どこで食べられるかなどを発表する予定です。

また、県内には、栽培から製粉・そば打ちまで全て一つの地域で行われたそばを食べられる施設や、そば打ち体験ができる施設も数多くあり、様々な形で信州そばを楽しむことができます。秋そばの収穫時期となる10月から11月を中心に、とれたての新そばを味わう「そばまつり」が県下各地で開催されますので、「信州ひすいそば」やお好みのそばをお目当てに、長野県に足を運んでみてはいかがでしょうか。

お問合せ

長野県農政部農業技術課
TEL 026-235-7221
HP http://www.pref.nagano.lg.jp/nogi/soba/hisuisoba.html

都道府県だより　2013年10月

富山県

Toyama

秋の誘客戦略「『富山で休もう。』キャンペーン」

富山県では、10月1日から「『富山で休もう。』キャンペーン」を展開しています。（12月末まで）

このキャンペーンでは、豊かな自然や食、文化など、都会では味わえない富山の魅力を感じてもらえるよう、県内の100を超える体験・ガイドツアーを紹介しています。例えば「宇奈月ほろ酔いはしごクーポン」では、酒と料理のセットなど、個性豊かな12店の中から2店を選び利用でき、気軽に美酒を楽しめます。また、「鋳物工房・利三郎鋳物体験」では、歴史ある高岡銅器の工房で、風鈴やペーパーウェイト等の製造が体験できます。

ほかにも、市町村と連携し「大人の遊び、33の富山旅。」と題した特別体験プログラムを提供中です。（11月15日まで）「おわらの粋と艶を湛える美町をチャリさんぽ」や「五箇山和紙と世界遺産縁側カフェに寛ぐ幸せ時間」等、富山の魅力を再発見する、ちょっと大人向けの富山旅を提案しています。

さらに、昨月、観光情報季刊誌「ねまるちゃ」を創刊し、富山の旬な食、観光、イベント等の情報を四季ごとに発信していきます。「ねまる」とは富山弁で「座る」の意味で、富山でゆっくりくつろいで欲しいという願いをこめています。創刊号は「富山で休もう。」キャンペーン連動企画として、富山ならではの「温泉」「伝統」「グルメ」「山」を中心とした体験企画を紹介しています。

このほか、期間中キャンペーン参加宿泊施設に宿泊された方の中から、抽選で270名様にペア宿泊券等があたるプレゼント企画や、宿泊施設、観光・土産物施設では、粗品プレゼントやドリンクサービスの提供等、おもてなしの特典企画が盛りだくさんです。

富山県では、このキャンペーンを契機として、新たな観光資源の掘起こしや観光客の受入れ態勢の一層の整備・充実を図るとともに、北陸新幹線の開業と北陸デスティネーションキャンペーンに向け、県民を挙げて観光客をもてなす機運の醸成を図ります。

お問合せ

富山県観光・地域振興局観光課
TEL 076-444-3517

キャンペーンに関する詳しい情報はこちら

「富山で休もう。」キャンペーン HP
http://www.toyama-de-yasumou.jp/
「大人の遊び、33の富山旅。」HP
http://33toyamatabi.jp/index.html

富山で休もう。　検索

石川県

Ishikawa

里山保全の全国組織が発足「SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク」

「SATOYAMA イニシアティブ」は、人の営みを通じて形成・維持されてきた里山里海などの二次的自然環境における生物多様性の保全やその持続可能な利用の促進を図るため、国際連合大学高等研究所や環境省が中心となって提唱している取組です。

本県は、県土の約６割が里山という特性もあり、環境部に「里山創成室」を設置し、里山里海の利用・保全というアプローチからの取組を進めています。加えて、同イニシアティブの国際的な推進組織である「SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI）」にも発足時から参画するなど、本県の取組を積極的に国内外に発信してきました。

さらに本県では、日本国内におけるネットワークを強固にし、多様な主体による里山里海の利用・保全の取組をこれまで以上に推進していくための国内組織の設立を提案し、国際連合大学や環境省、関係団体と協力・連携して、設立に向けた準備を進めてきました。

こうした中、本年９月 13 日、福井県福井市で開催された IPSI 第４回定例会合に合わせて、里山保全の全国組織となる「SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク」を設立しました。

設立総会であいさつする谷本石川県知事

設立総会には、企業、民間団体、研究機関、行政など 101 の団体が参加し、谷本石川県知事と西川福井県知事が共同代表に就任するとともに、多様な主体がその垣根を越えて、交流・連携・情報交換を図るためのプラットフォームを構築し、SATOYAMA における生物多様性の保全や利用の取組の裾野拡大とさらなる推進を図っていくことを確認しました。

続いて開催された IPSI 第４回定例会合サイドイベント「SATOYAMA ダイアローグ」では、両県知事による取組事例の紹介や IPSI メンバーとの対話が行われるなど、今後の SATOYAMA イニシアティブの推進に向け気運が高まりました。

本県としても、ネットワークの活動を通じて、里山里海の利用・保全の取組が国民的な取組になるよう、その裾野拡大と質の向上に貢献していきたいと考えています。

お問合せ
石川県環境部里山創成室
TEL 076-225-1469

都道府県だより　2013 年 10 月

愛知県

Aichi

11 月９日（土）・10 日（日）「B-1 グランプリ in 豊川」開催

B-1 グランプリ本大会は、年に一度、御当地グルメでまちおこしに取り組む団体が全国から集結するイベントです。今年 11 月には、愛知県豊川市で開催されます。

今年の大会には、過去最多の 64 の団体が出展し、自慢の御当地グルメを提供するとともに、まちの PR や来場者を楽しませるパフォーマンスを繰り広げます。開催地である愛知県からは、「『豊川いなり寿司』で豊川市をもりあげ隊」と「高浜とりめし学会」が出展します。

同時開催される「魅力発信！愛知・東三河フェア」では、県内の御当地アイドルや、ゆるキャラが出演するステージイベント、県内市町村・観光協会による観光 PR や特産品の展示即売などにより、愛知・東三河の魅力をお楽しみいただけます。

たくさんの皆様の御来場をお待ちしております！

＜大会概要＞
- 名　称　第８回ご当地グルメでまちおこしの祭典！B-1 グラプリ in 豊川
- 日　時　平成 25 年 11 月９日（土）・10 日（日）９：30 ～ 15：30
- 会　場　豊川市（豊川稲荷周辺・豊川市野球場周辺）
- 主　催　ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会 B-1 グランプリ in 豊川実行委員会
- 入場料　無料。ただし、料理の購入には、イベント専用チケット「たべりんくうポン券」が必要です。

豊川いなり寿司
イメージキャラクター

お問合せ
B-1 グランプリ in 豊川実行委員会事務局
TEL 0533-89-2262
愛知県産業労働部観光コンベンション課
TEL 052-954-6373

三重県

Mie

首都圏営業拠点「三重テラス」がオープン！

三重県は、平成25年9月28日（土）に東京・日本橋に首都圏営業拠点「三重テラス」をオープンしました。

■ショップ（1階）

「本物志向」、「品質重視」、「価値重視」を基本に、三重の豊かな自然や歴史に育まれた魅力ある県産品を、地域ならではの物語と共に販売します。三重テラスオリジナルのブランド商品もラインアップしています（営業時間：10:00～20:00）。

■レストラン（1階）

三重の野菜や肉・魚介などの産直食材の良さを活かした料理を提供します。三重の各地域の「旬」の食材を使ったオリジナルメニューを通して、三重の「食」を御堪能いただけます（営業時間：11:00～23:00　ラストオーダー22:30）。

■多目的ホール（2階）

三重の豊かな自然、歴史、文化、食など、地域色豊かな情報を発信し、三重ファンのネットワークを構築します（営業時間：10:00～22:00）。

お問合せ

三重テラス
東京都中央区日本橋室町2-4-1
YUITO ANNEX　1・2階
（東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅直結）
ショップ
TEL 03-5542-1033
レストラン
TEL 03-5542-1030
多目的ホール
TEL 03-5542-1035
※年末年始を除き無休で営業します。

福井県

Fukui

「空前絶後の岡倉天心展」
～天心と福井とのつながりをPR～

福井県立美術館では、岡倉天心の生誕150年、没後100年を記念した「空前絶後の岡倉天心展」を開催します。

岡倉天心は、福井藩の武家の子として、開国後間もない1863年(文久2年)に生まれました。岡倉家は、父を始め代々福井藩に仕え、福井城下の東、志比口に居を構えていました。天心は、父と母が生まれ育った福井を、自分のふるさとと言い残し、自らの履歴書にも「旧福井藩士」「越前生まれ」などと記しています。

天心は、日本の文化財の修繕や保護に取り組む一方、東京美術学校の設立に貢献し、のちに日本を代表する画家を世に送り出しました。また、日本美術院を創設し、日本の絵画に西洋画法を取り入れるなど、近代の日本美術の発展に貢献しました。

さらに、活躍の場は海外へと広がり、講演会や展覧会を通じて日本や東洋美術の啓蒙に努めたり、「茶の本」を始めとする英文の著書を3冊出版するなど、日本の文化や思想の素晴らしさを全世界にアピールしました。

下村観山「天心岡倉先生（草稿）」東京藝術大学蔵

本展では、天心の代表作「驢馬と人物」や「海辺の松」などを展示するほか、イラスト入りの直筆手帳や日誌を公開し、天心の活躍と業績について紹介します。また、天心と一緒に日本画の革新を先導した狩野芳崖と橋本雅邦、天心の思いを受け継いだ横山大観や菱田春草、下村観山らの作品を多数展示。中でも、日米に別れたフェノロサの愛蔵コレクションが約100年ぶりに集結し、注目を集めます。このほか、県内外の豊富な資料をもとにこれまであまり知られていなかった岡倉家のルーツを徹底検証、天心と福井とのつながりを一層明らかにします。

急激な西洋化の波が押し寄せた明治期にあって、文化行政官、美術指導者、思想家として新しい時代を切り拓いた岡倉天心の魅力に触れながら、その足跡をたどる特別展に是非お越しください。

お問合せ

福井県立美術館
TEL 0776-25-0452

滋賀県

Shiga

滋賀県の流域治水の取組ー地先の安全度マップー

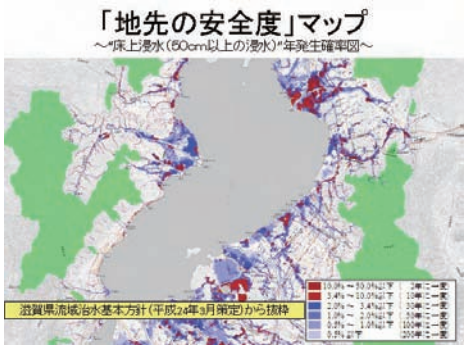
滋賀県では、どのような洪水にあっても、人命が失われることを避けることを最優先に、床上浸水などの生活再建が困難となる被害を避けることを目標とする「流域治水」を進めています。

流域治水の手段は四つです。河川改修などの「ながす」対策に加え、雨水を「ためる」対策、氾濫の拡大を「とどめる」対策、地域で「そなえる」対策を総合的に実施することとしています。この流域治水を進めるに当たっては、県民の皆様と御自宅やお勤め先などの場所が、どのくらいの水害リスクがあるのかを、認識・共有することが不可欠です。

そこで、滋賀県は、全国で初めて、水防法に基づく主要河川の氾濫だけでなく、用水路や下水道などから水があふれる「内水氾濫」も考慮した水害リスク図「地先の安全度マップ」を作成・公表しました。

御自宅付近の水路などの氾濫や浸水の危険性を目に見えるように図化できたため、避難行動や安全な住まい方など、命を守るための対策に役立てていただいています。例えば、住民が「地先の安全度」マップをもとに避難計画を検討したり、小学生が通学路の洪水時危険箇所点検に活用したりしています。

さらに、本県は、このマップを用いて、河川改修などの治水対策に加え、土地利用や建築制限などの川の外における治水対策の検討にも活用しているところです。



■地先の安全度マップの概要
http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/tisakinoanzendo/top_page.html
■地先の安全度マップ（家屋一軒一軒まで拡大できます）
http://shiga-bousai.jp/internet/map/index.html

滋賀県土木交通部流域政策局流域治水政策室 HP
http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/

京都府

Kyoto

京都ジョブパーク開設10周年 相談者数43万人、内定者３万人を突破!

「京都ジョブパーク」は、平成15年に「若年者就業支援センター（ジョブカフェ京都）」として開設してから、本年８月で10周年という節目を迎えました。

この間、障害のある方を対象とした「はあとふるジョブカフェ」、母子家庭や子育て中の女性を対象とした「マザーズジョブカフェ」、生活支援が必要な方に“寄り添い型”の支援も行う「京都自立就労サポートセンター」など、求職者の様々なニーズに応える相談窓口を設置してきました。また、セミナーへの講師派遣や職場実習の受入れなどを積極的に行う「企業応援団」を全国で初めて結成、人材確保に悩む中小企業を支援する「中小企業人財確保センター」の設置など、公労使の「オール京都体制」で、府民の皆様の働きたい気持ちを応援してきました。

平成24年度には、国のアクションプランに基づき、ハローワークとの“完全一体型ジョブパーク”としてリニューアルし、職業相談と職業紹介に加え、これまでハローワークでしかできなかった、雇用保険手続きなどの業務が京都ジョブパーク内で可能となりました。これにより、相談から就職、職場への定着までを完全ワンストップで支援する真の総合就業支援拠点となり、開設から10年間で延べ43万人以上の方が相談に訪れ、３万人以上の方が就職内定を獲得されています。

また、平成25年９月９日には、10周年記念イベント「はばたけ若者！京都塾」を開催し、基調講演では、京都企業の経営者から、「働く」ことについて、御自身の成功の秘訣などをお話しいただきました。

今後も、京都ジョブパークは、常に利用者を起点とし、よりいっそう機能を充実させながら、府民の皆様が働く喜びを実感できるよう全力でサポートしていきます。

お問合せ
京都府商工労働観光部総合就業支援室
TEL 075-682-8912

大阪府

Osaka

「第３回大阪マラソン」開催！ ～大阪の秋のビッグイベント～

大阪マラソン2013 OSAKA MARATHON

10月27日（日）に「第３回大阪マラソン」を開催します。今大会より、大阪マラソンは、毎年10月の最終日曜日に開催することが決まりました。

今年も30,000人のランナーが、大阪のまちに集結し、観光名所を駆け抜けます。特に今年は、世界40ヵ国・地域から過去最高人数の海外ランナーにエントリーいただくなど、国内外を問わず、人気の高い大会となっています。42.195kmのコースは、大阪城公園前をスタートし、大阪のメインストリートである御堂筋や、水辺が美しい中之島、通天閣周辺などを巡り、南港のインテックス大阪がフィニッシュとなります。

本大会は、チャリティマラソンでもあります。「みんなでかける虹。」を合言葉に、難病の子どもや被災地支援などのテーマごとに寄付を募り、そのテーマに沿った活動をしている団体への支援につなげ、世界で最も多くの人がチャリティに参画するマラソンを目指します。昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞された京都大学の山中伸弥教授やミュージシャン「コブクロ」の小渕健太郎さんなどが、チャリティアンバサダーとして出場し、チャリティを呼びかけます。併せて、今年は一般の方からチャリティランナーを募集し、寄付目標額に達成した方に出場いただきます。

また、10月25日（金）から27日（日）まで、インテックス大阪で「大阪マラソン EXPO2013」を開催します。スポーツメーカーなどが出展するイベント・展示即売ブースや府内の観光案内のほか、フードコート「うまいもん市場」も開設します。参加ランナーはもちろん、どなたでも楽しんでいただけます（入場無料）。

ランナーはもとより、ボランティアや、コース沿道18ヵ所で披露される「ランナー盛上げ隊！」によるパフォーマンスなど、大阪挙げてのビッグイベントに御期待ください。

お問合せ
大阪マラソンコールセンター
TEL 06-6445-3978（平日10時～17時）

■大阪マラソン EXPO2013
HP http://www.osaka-marathon.com/expo2013/
・出展ブース　：10月25日（金）～26日（土）
・うまいもん市場：10月25日（金）～27日（日）

■大阪マラソン公式サイト
HP http://www.osaka-marathon.com/

都道府県だより　2013年10月

奈良県

Nara

奈良県での、保護観察対象者への支援について

奈良県では、奈良保護観察所からの推薦を受けた保護観察中の少年らを、面接の上臨時職員として採用し、奈良保護観察所、ハローワーク等と連携して、就職につなげる取組を10月から行います。

法務省がとりまとめた犯罪白書によると、保護観察対象者のうち、無職の人の再犯率は、職を持っている人の約５倍となっていますが、昨今の経済雇用情勢等から、少年たちの就労先を確保することは困難な状況です。

そこで、地域の最大級の事業者でもある奈良県が、保護観察対象者を率先して雇用することで、民間企業や市町村の取組促進につなげることとしました。これは、都道府県では全国初の取組です。

雇用期間は、原則６ヵ月以内で、週４日パソコン入力作業等の事務補助に従事してもらい、平日の１日は就職活動にあててもらうことにしています。就職活動については、ハローワーク等と連携して支援します。

このほか、県では、９月12日に有識者、関係機関と意見交換を行う社会復帰促進就労支援懇談会を開催しました。今年度は、更にシンポジウムの開催や啓発冊子の作成も行う予定です。今後も引き続き関係者との意見交換を行いながら、保護観察対象者の雇用等について理解を得るとともに、さらなる社会的機運の醸成を図り、民間企業や市町村による自主的な雇用を促したいと考えています。

社会復帰促進就労支援懇談会のようす

和歌山県

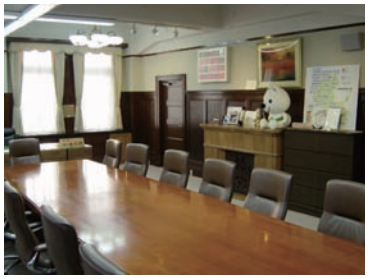
Wakayama

和歌山県庁本館が登録文化財に

この度、和歌山県庁本館が国登録有形文化財として登録されることになりました。この県庁本館は昭和13年に建築され、以降和歌山大空襲や戦後の復興発展を見守り続け、75年の長きにわたり県民に親しまれた和歌山県を代表する近代洋風建築です。

庁舎は平成22年度末に耐震補強を中心とする改修工事が完成し、巨大地震にも耐える建築となりましたが、淡黄色タイル張りのモダンな外観を始め、正面玄関・階段室、正庁、知事室、県議会議場などは完成時の姿をよく遺し、歴史的建造物としても高く評価されています。

特に知事室は、チーク材の腰壁と大きな暖炉を備え、風格ある空間となっており、戦後まもなく昭和天皇が和歌山県を訪問された際には、この部屋に宿泊されたこともありました。当然のことながら、知事室は面談や協議の場として、今も現役で使われています。



鉄筋コンクリート造4階建て、議場部分のみは鉄骨鉄筋コンクリート造のこの庁舎の設計は、県技師となった増田八郎が担当しました。富山県庁舎と外観がよく似ていることが指摘されていますが、当時和歌山県では設計に当たって堅牢であることを第一とし、外観は新奇を求めず、設計者増田の前作品である富山と類似の形式でもよいとしたためです。

現役の都道府県庁舎で登録されているのは、神奈川県、静岡県、愛知県の各庁舎があり、本県庁舎の登録は4番目に当たります。

和歌山県は海山の自然が豊かであるばかりではなく、多くの歴史的文化的拠点を擁し文化遺産に恵まれた県です。文化遺産は地域の魅力を高めるために不可欠なものであり、今後も文化財指定や登録を一層進め、癒しと感動を与える、誇れる郷土和歌山を目指してまいります。

都道府県だより　2013年10月

兵庫県

Hyogo

兵庫の魅力を発信！
～あいたい兵庫キャンペーン2013～

●あいたい兵庫キャンペーン2013

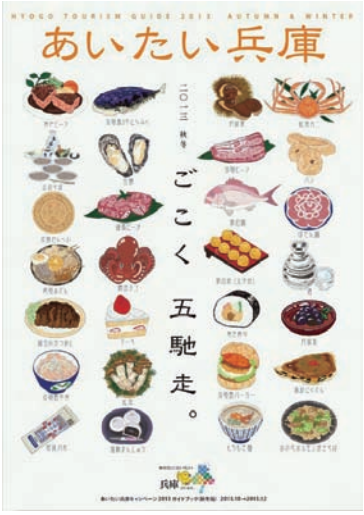
県、市町、観光関連団体、JR西日本等が連携し、大河ドラマ「軍師官兵衛」や編纂1300年を迎える播磨国風土記関連の観光資源も活用しながら、地域の「食」を中心に、兵庫県の魅力を全国に発信する「あいたい兵庫キャンペーン2013」を実施しています。その一環として、下記のとおり兵庫の魅力を紹介するWEBサイトを開設しています。是非御覧下さい。

●兵庫県民総勢1,000人がおススメする「食」情報が満載！～WEBサイト「1000% HYOGO［食］」～

兵庫県にゆかりのある著名人や兵庫県民に「あなたがおススメするこの店のこの一品」を、総勢1,000人を目指して総力取材し、その情報を発信しています。
HP http://www.hyogo-tourism.jp/1000hyogo/

●兵庫のお城を楽しく旅する～WEBサイト「たびたび城たびin兵庫」～

兵庫県は、お城の宝庫です。その総数は1,000以上で、世界遺産の姫路城を始め、国指定史跡になっている城・城跡は21と、全国一を誇ります。その中から厳選した100城をピックアップし紹介しています。また、旅好き・歴史好きブロガー100人のお城めぐりレポートでは、お城の感想や御当地名産品、グルメなど生の声をお届けしています。



HP http://www.hyogo-tourism.jp/shirotabi/

お問合せ
公益社団法人ひょうごツーリズム協会
TEL 078-361-7661
FAX 078-361-7662
HP http://www.hyogo-tourism.jp/

鳥取県

Tottori

エコツーリズム国際大会2013in鳥取開催に向けて 地域が、みんなが元気になるエコツーリズム

近年、旅のスタイルが大きく変化してきました。これは社会の成熟化や環境に配慮した生活のスタイルが定着してきたことが背景にあります。その新たな旅の形の一つがエコツーリズムです。

エコツーリズムは、途上国において、観光客に豊かな自然を見せて経済振興を図ることで、森林伐採などの自然開発から自然を保護しようとする産業転換を促す考え方として始まりました。その後、先進国では持続的な観光振興を目指す概念として論じられるようになり、日本でも 1990 年代後半にエコツーリズムの普及に向けた動きが加速しました。

同時期、鳥取県内でも「大山ブナの森ウオーク」などのガイドツアーが始まるなど、エコツーリズム視点での体験型観光プログラムづくりが大山山麓を中心に進められました。現在では観光事業者、エコツーリズム協議会などが、四季を通じて様々なエコツアーを企画しています。中には、渓流を歩いたり滝登りをしたりするシャワークライミングや大山を自転車で駆け下りるダウンヒルサイクリングなど大人気のプログラムも出てきました。リピーターも多く、「持続的な観光振興」、「地域のファンづくり」の取組が広がっています。近年は、自然だけでなく、地域の産業や生活文化、歴史、食などを活用したプログラムも動きだし、これらを目的に鳥取県を訪問する観光客が増えていくことが期待されています。

「エコツーリズム国際大会 2013in 鳥取」は、このような背景を受けて開催されることとなりました。国際リゾートを目指す鳥取県として、地元のすばらしさを、国際的な視点であらためて確認することは重要なことです。県外や国外の方々に実際にプログラムに参加いただき、評価を受けることで、今後の「持続的な地域振興」につなげていきたいと考えています。

大会は 10 月 19 日から 21 日までの間、米子・大山を主会場に開催されます。大会テーマを「森・里・海、水の連環と人々の営み」と題し、鳥取県ならではのエコツーリズムについて議論をし、フィールドで実際にエコツアーを体験していただきます。基調講演では国連「フォレストヒーローズ」初代受賞者でもある NPO 法人森は海の恋人の理事長畠山重篤氏など多彩な方々に登壇していただきます。

お問合せ
鳥取県西部総合事務所地域振興局
エコツーリズム国際大会室
TEL 0859-31-9372
HP http://iec2013.daisenwonder.com/

都道府県だより 2013 年 10 月

岡山県

Okayama

美作国建国 1300 年記念事業 「美作国 the ミステリー」開催中！

岡山県北部の美作地域では、今年度美作国（みまさかのくに）建国 1300 年を記念する多彩なイベントを開催しています。

今回は、先月から新たに始まった「美作国 the ミステリー」について御紹介します。

岡山県美作市在住の作家あさのあつこさんが美作国を舞台に書き下ろした、初の本格的推理小説「美作は謎に満ちて」を手に美作国を巡り、謎解きに挑戦する参加型イベントです。

小説の主人公は折井円香。ミステリー作家の兄暁が東京で転落死した後、円香のもとに暁から「自殺ではなく殺人犯が存在する。かつて美作国と呼ばれた地域に行け」との手紙が届き、真相を探るべく旅立つというストーリーです。小説の中では真犯人が明かされず、実際に小説の舞台である美作国を巡らなければ分からない仕掛けが施されています。

「美作は謎に満ちて」は公式ホームページからデジタルブック版をお読みいただくことができ、見事に謎を解き明かした読者には、抽選で賞品のプレゼントもあります。

皆さん是非探偵となって、美作国で謎解きに挑戦してみてください。

お問合せ
美作国建国 1300 年記念事業実行委員会事務局
TEL 0868-35-3434

★美作国建国 1300 年記念事業実行委員会 HP
http://www.mimasaka1300.org/

島根県

Shimane

隠岐ジオパークが世界ジオパークに認定されました。

隠岐ジオパークは、本年９月９日に、韓国チェジュ市で開催されたアジア太平洋ジオパークネットワーク会議において、世界ジオパークネットワーク（GGN）への加盟が認められ、「隠岐世界ジオパーク」となりました。

GGN は、2004 年に国連教育科学文化機関（ユネスコ）の支援により設立されており、その取組は、重要な地質遺産を持つ地域を認定し、環境保全、教育、研究を進めつつ、持続可能な経済発展を図ることを目指しています。

現在、29 ヵ国 100 地域が世界ジオパークに認定されており、「隠岐世界ジオパーク」は、国内で６番目の認定となりました。

■隠岐世界ジオパークとは

隠岐世界ジオパークは、島根半島の北 40 ～ 80km の日本海に浮かぶ四つの有人島と大小 180 余りの無人島からなる隠岐諸島と、その周辺の海域を併せた 673.5㎢を範囲としています。

隠岐諸島は、約 500 ～ 600 万年前の火山活動によって日本海に誕生した離島で、約 2500 万年前から始まったとされる日本海形成というダイナミックな地殻変動の記録をとどめています。

また、その植生は、亜寒帯の植物が暖温帯の植生に混交して見られる独特なものとなっています。

さらに、火山活動の産物である黒曜石に始まる古代からの歴史や文化が、神社やそこで行われる祭祀の中に息づいています。

韓国チェジュ市の会議での認定の模様

隠岐世界ジオパークでは、地質、植生、歴史文化など、様々な要素のつながりを楽しみながら知ることができます。

■全国大会の開催

今回の世界認定を記念して、本年 10 月 15 日から 18 日、隠岐の島町を主会場に、日本ジオパーク隠岐大会を開催します。大会には、日本ジオパークネットワークの関係者など約 500 人が集い、GGN 審査員による基調講演、分科会、研修視察などを実施します。

お問合せ

隠岐ジオパーク推進協議会事務局（島根県隠岐合同庁舎内）
TEL 08512-2-9636
HP http://www.oki-geopark.jp/

都道府県だより　2013 年 10 月

広島県

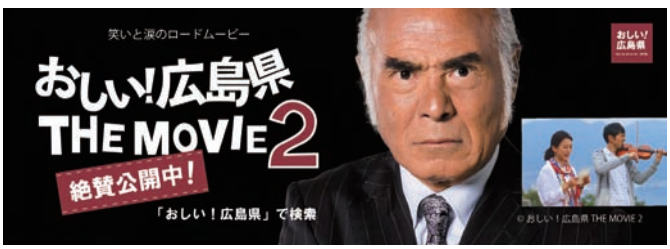
Hiroshima

広島県観光プロモーション「やっぱり おしい！広島県」多彩に展開中！

「おしい！広島県」は、広島には魅力的な観光資源が豊富にあるのに、全国では知られていないという「実に、おしい！」状況を全国の方々に知ってもらい、興味を持ってもらい、広島へ訪れてもらうことによって「おいしい！」に変えていこうと、平成 24 年３月 27 日より開始した、観光プロモーションです。映像「おしい！広島県 THE MOVIE」は、観光映像大賞（観光庁長官賞）を受賞するなど、話題となりました。

今年、８月８日には、第２弾として、約 22 分の本格ドラマ「おしい！広島県 THE MOVIE ２」を公開。広島県副知事役の河原さぶさん、河原さんの娘役の戸田菜穂さん、観光課職員で戸田さんの恋人役の田中卓志さんが、広島を旅することで「おしい！」の本当の魅力に気付いていく様子を描いた笑いと涙のロードムービー。このドラマを主軸に、河原さぶさんと神楽鑑賞などを楽しむ「おぃしい！広島の旅」や広島名産品があたる「おぃしい！広島名産品」プレゼント企画、「広島おもてなし報道局員」による県内イベントでのおもてなし活動、ウェブサイトでのお勧めコース紹介など、多彩なプロモーションを展開中。

紅葉が見頃となるこの季節、「おぃしい！広島」を味わいに、是非お越しくださいませ！



「おしい！広島県 THE MOVIE 2」

お問合せ

広島県商工労働局観光課
TEL 082-513-3398
HP http://www.oc-h.jp

Yamaguchi 山口県

やまぐちの産業・味・特産品の魅力を集結！「きらら産業交流フェア 2013」を開催

山口県産品の展示販売や参加体験型の多彩なイベントを行う「きらら産業交流フェア 2013」が、10月19日と20日に、山口市阿知須の「山口きらら博記念公園」で開催されます。

これは、産業振興、農林水産業の振興、地産地消の推進を図り、「産業力・観光力の増強」につなげることを目的として開催するもので、会場では、「ふるさと産業」「やまぐちの味」「地域特産品PR」の三つのエリアを設け、本県の魅力を県内外に発信します。

ふるさと産業エリアでは、野菜や果物、畜産物、地酒、銘菓、工芸品など多彩な県産品の展示販売や、住まいに関する展示、子どもから大人まで楽しみながら環境について学ぶ参加体験型イベントなど、多彩なイベントを開催します。

毎年大人気の県産牛肉・鶏卵（ゆで卵）試食会や、親子木工教室、エコカー試乗会、地球温暖化防止について学ぶスタンプラリーなど、楽しいコーナーも多数用意しています。

また、県産木材のPR、太陽光発電などの県産再生可能エネルギー製品やリサイクル製品の展示・相談会も行います。

昨年のフェアの様子

やまぐちの味エリアでは、フグの空揚げ、アユ、ウニ飯、焼きイカなどの実演販売がずらりと並び、やまぐちの味を堪能できるコーナーを用意しています。

地域特産品PRエリアでは、「やまぐちブランド」「山口海物語」「6次産業化製品」「農商工連携・地域資源商品」など、地域色あふれ、全国に誇れる特産品を一堂に集めた展示販売コーナーを用意しています。

やまぐちの産業・味・特産品の魅力を集結した、「きらら産業交流フェア 2013」に、是非お越しください。

お問合せ
山口県地域政策課
TEL 083-933-2546
HP http://www.kirara2013.com/

都道府県だより 2013年10月

Kagawa 香川県

★オリーブ商品、続々登場

生産量日本一、そして海外でも品質の良さが評価されている香川のオリーブ。収穫の最盛期である晩秋の到来とともに、オリーブ商品が続々登場してきます。

10月10日　オリーブ新漬け解禁

解禁日を待ち望むファンが多い「新漬け」は、緑色の若いオリーブを塩漬けしたもの。外国産のような発酵した漬物とは味が異なり、初めて口にした人からは「今までオリーブに持っていたイメージが大きく変わった」と言う声をよく聞きます。ぷりっとかわいらしく、クセのない味に魅せられる人も多いとか。味も食べ方も漬物のようで、片手でつまんでポリポリかじって楽しめます。国産オリーブならではの実の新鮮さを、そのまま味わっていただだける逸品です。

10月10日解禁　オリーブの「新漬け」

10月10日に解禁となり、首都圏や香川県内で販売されます。最近はインターネットでの通販や、料理店でも見かけるようになってきました。オリーブが苦手という方にも是非一度お試しいただきたい商品です。

世界でも認められる　香川のオリーブオイル

「オリーブオイル」も今年収穫分のものが年末から年明けにかけて登場します。「2013ロサンゼルス国際エキストラバージンオリーブオイル品評会（北半球の部）」で、香川県から出品した15点全てが金賞または銀賞に輝きました。さらにイタリアで出版されているオリーブオイルのガイドブック「2012フロスオレイ世界オリーブオイルガイドブック」に日本企業として初めて香川県の7社のオイルが掲載され、2013年版には9社のオイルが掲載されました。

オリーブオイル

オリーブの生産が盛んな香川県・小豆島

日本のオリーブ栽培発祥の地・香川県のオリーブが、100年を超える歳月を経て、今、世界でも高く評価され始めました。瀬戸内の温暖な気候風土の中で育ち、つくり手の想いがつまった味を、この秋お楽しみください。

お問合せ
農業生産流通課　TEL 087-832-3420
県産品振興課　TEL 087-832-3375

香川のオリーブが購入できるショップ
＜香川県内＞
・かがわ物産館「栗林庵」TEL 087-812-3155
＜東京・新橋＞
・香川・愛媛せとうち旬彩館 TEL 03-3574-7792

徳島県

Tokushima

おどる宝島！とくしまを感じる「阿波とくしま観光週間」

徳島県では、10月9日を「阿波とくしま観光の日」、この9日を含む1週間を「阿波とくしま観光週間」（今年は10月7日から13日まで）と定め、観光振興に取り組んでいます。

これに合わせ、10月11日から14日まで、東京・六本木の複合施設「東京ミッドタウン」において「食」を中心に様々な魅力を一体的に発信するイベント「第12回ミッド マーケット～おどる宝島！とくしまを感じる4日間～」を開催します。期間中は、徳島のこだわり産品を取り扱う産直市「とくしまマルシェ」を始め、徳島ならではの農産物、特産品、加工品を出展するほか、藍染め体験などのワークショップ、阿波おどりなど、徳島の魅力をまるごと発信する予定です。また、今回のイベントを通じて、平成26年度実現見込みの本四高速全国共通料金制度の導入によって「近くなる徳島」を、「おどる宝島！とくしま」のキャッチフレーズと共に発信していきます。

一方、徳島市内では「マチ★アソビvol.11 ×国際アニメ映画祭」を開催中。目玉は、10月12日から14日の眉山山頂ステージ。アニメ情報誌「Newtype」とコラボした「Newtypeアニメアワード2013」では、授賞式や野外シアターでの上映を行います。新作プロモーションビデオや作品の先行公開など、徳島でしか味わうことのできないイベント満載です。アニメファンのパラダイスとなる秋の徳島にも、是非お越し下さい。

◆第12回ミッドマーケット
～おどる宝島！とくしまを感じる4日間～
【と　き】10月11日（金）～14日（月・祝）
【ところ】東京ミッドタウン（東京都港区赤坂9-7-1）

お問合せ
徳島県観光政策課
TEL 088-621-2356
HP http://www.tokyo-midtown.com/jp/index.html

◆マチ★アソビvol.11 ×国際アニメ映画祭
【と　き】開催中～10月14日（月・祝）
【ところ】徳島市中心部、眉山山頂ほか

お問合せ
アニメ映画祭実行委員会（徳島県にぎわいづくり課内）
TEL 088-621-2146
HP http://www.machiasobi.com/

都道府県だより　2013年10月

愛媛県

Ehime

～かんきつの周年供給体制を目指して～

愛媛県は、『柑橘王国えひめ』として「かんきつの周年供給体制の構築」を進めているところです。

これまで、夏場のかんきつと言うと、国産はハウスみかんがあるくらいで、あとは輸入のグレープフルーツやオレンジが主体でしたが、県みかん研究所が開発した長期鮮度保持技術を活用することにより、旬の時期に収穫したかんきつを夏場に販売することが技術的に可能となりました。

このため、県南予地方局では、出荷時期集中による値崩れ防止と端境期の高値販売による生産者の所得向上及び経営安定を図るため、本年度、試食会の実施等の広報宣伝活動や消費地における試験販売等に取り組みました。

試験販売は、「清見」、「タロッコ」（ブラッドオレンジ）、「甘夏」、「河内晩柑」の4品種合計約8tを、首都圏の高級スーパー「プレッセ」や「成城石井」、高級スイーツ店「トシ・ヨロイヅカ」等や千葉県市川市の学校給食向けに実施しました。

食した方たちからは、「食味は通常期のものと遜色ない」、「国産の瑞々しいかんきつは、この時期に少ないので、できれば取り扱いたい」など、販売実現に向けての手応えを感じました。

今後も、愛媛県内はもちろんのこと、首都圏や他の都市部での試食会等を通じて、『夏にも美味しい愛媛のかんきつ』を一人でも多くの皆さんに味わっていただきたいと思っています。

お問合せ
愛媛県南予地方局産業振興課
TEL 089-28-6145

高知県

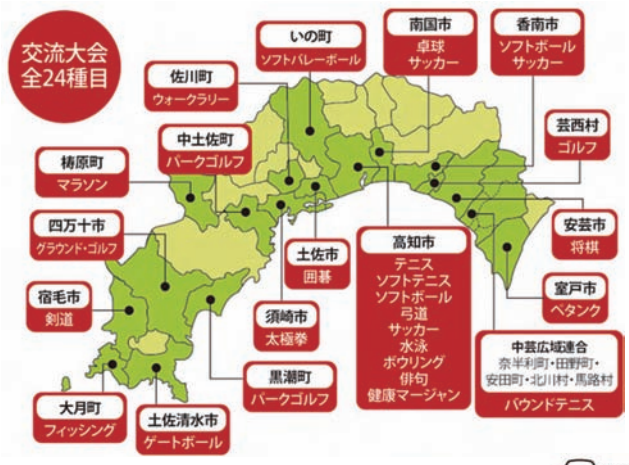
Kochi

「ねんりんピックよさこい高知 2013 ～長寿の輪 龍馬の里で ゆめ交流～」開幕 !!

60 歳以上の方々を中心に、スポーツや文化活動を通じて交流を深める「第 26 回全国健康福祉祭・ねんりんピックよさこい高知 2013」が、いよいよ 10 月 26 日（土）に開幕します。高知県内の 17 市町村 1 広域連合で開催するスポーツ・文化の交流大会には、全国から約 10,000 人が来高して日ごろの練習の成果を競い合うほか、子どもからお年寄りまで世代を超えて楽しめる健康フェアや、高知の食を味わえる関連イベントなど、盛りだくさんの内容となっています。

高知県では、この大会が契機となって県内のスポーツや文化活動の活性化につながるよう、さらには、来県された方々が高知ファン、また大切な高知家の家族の一員になっていただけるよう、次の四つの目標を掲げて開催に向けた準備を進めてきました。

「よ」うこそ高知へ　：県民みんなでおもてなしをする大会
「さ」あ、一緒に　：地域や世代を超えた絆を結ぶ大会
「こ」れからのきっかけ：喜びや感動のある大会
「い」きいき暮らす　：健康長寿を実感できる大会



「高知県はひとつの大家族やき。高知家」のコンセプトの下、こうち大会が皆様にとっていつまでも心に残る素晴らしい大会となるよう、県民挙げてのおもてなしをさせていただきます。是非この機会に高知県へお越しください。お待ちしています。

大会マスコット
くろしおくん

お問合せ
県庁ねんりんピック推進課
TEL 088-823-9652
HP http://www.nenrin2013.pref.kochi.lg.jp/

都道府県だより　2013 年 10 月

福岡県

Fukuoka

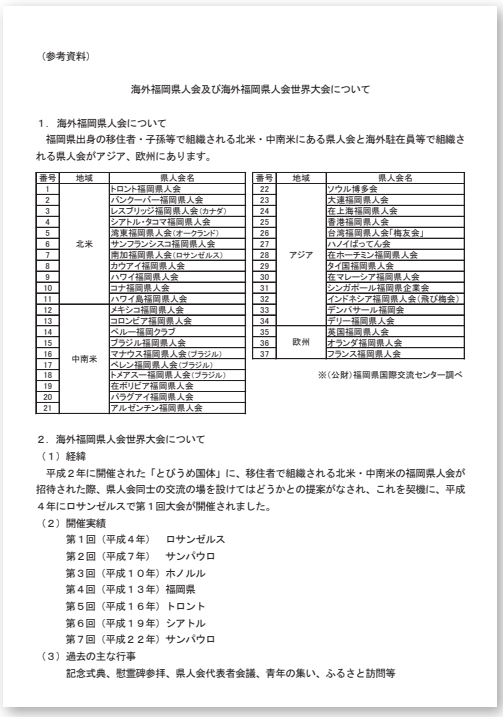
第８回海外福岡県人会世界大会を福岡県で開催 !

10 月 9 日（水）から 12 日（土）までの 4 日間、福岡県において「第 8 回海外福岡県人会世界大会」が開催されました。この世界大会は平成 4 年から 3 年ごとに開催されており、母県・福岡県での開催は 12 年ぶりでした。

今回の大会は、「ルーツは福岡　夢は世界へ～未来につなごう　福岡の絆～」をキャッチフレーズに、福岡県出身の移住者で組織される北米・中南米にある県人会、並びに海外駐在員を中心に組織されるアジアの県人会から、合わせて約 300 名の方々が参加しました。

参加された県人会の皆さんには、ふるさと福岡県の姿をつぶさに見ていただき、また、「海外福岡県人会フェア」や「ビジネスセミナー」「青少年セミナー」など多彩なイベントを開催し、県民の皆さんには海外にある県人会のことや県人会の皆さんの活躍ぶりを広く知っていただく良い機会となりました。

福岡県では、この世界大会を契機として、福岡県と各県人会、また県人会相互のネットワークを深め、これらのネットワークを生かしたビジネスや青少年交流等、幅広い分野での交流を推進していきます。このような取組を通じて、福岡県と世界各地とのネットワークの強化を目指していきます。



（参考資料）

海外福岡県人会及び海外福岡県人会世界大会について

1．海外福岡県人会について
福岡県出身の移住者・子孫等で組織される北米・中南米にある県人会と海外駐在員等で組織される県人会がアジア、欧州にあります。

番号	地域	県人会名
1	北米	トロント福岡県人会
2		バンクーバー福岡県人会
3		レスブリッジ福岡県人会（カナダ）
4		シアトル・タコマ福岡県人会
5		南東福岡県人会（オークランド）
6		サンフランシスコ福岡県人会
7		南加福岡県人会（ロサンゼルス）
8		カウアイ福岡県人会
9		ハワイ福岡県人会
10		コナ福岡県人会
11		ハワイ島福岡県人会
12	中南米	メキシコ福岡県人会
13		コロンビア福岡県人会
14		ペルー福岡クラブ
15		ブラジル福岡県人会
16		マナウス福岡県人会（ブラジル）
17		ベレン福岡県人会（ブラジル）
18		トメアスー福岡県人会（ブラジル）
19		在ボリビア福岡県人会
20		パラグアイ福岡県人会
21		アルゼンチン福岡県人会

番号	地域	県人会名
22	アジア	ソウル博多会
23		大連福岡県人会
24		在上海福岡県人会
25		香港福岡県人会
26		台湾福岡県人会「梅友会」
27		ハノイぼってん会
28		在ホーチミン福岡県人会
29		タイ国福岡県人会
30		在マレーシア福岡県人会
31		シンガポール福岡県企業会
32		インドネシア福岡県人会（飛び梅会）
33		デンパサール福岡会
34		デリー福岡県人会
35	欧州	英国福岡県人会
36		オランダ福岡県人会
37		フランス福岡県人会

※（公財）福岡県国際交流センター調べ

2．海外福岡県人会世界大会について
（1）経緯
平成２年に開催された「とびうめ国体」に、移住者で組織される北米・中南米の福岡県人会が招待された際、県人会同士の交流の場を設けてはどうかとの提案がなされ、これを契機に、平成４年にロサンゼルスで第１回大会が開催されました。
（2）開催実績
第１回（平成４年）　ロサンゼルス
第２回（平成７年）　サンパウロ
第３回（平成１０年）ホノルル
第４回（平成１３年）福岡県
第５回（平成１６年）トロント
第６回（平成１９年）シアトル
第７回（平成２２年）サンパウロ
（3）過去の主な行事
記念式典、慰霊碑参拝、県人会代表者会議、青年の集い、ふるさと訪問等

お問合せ
福岡県国際交流局交流第二課
TEL 092-643-3219

佐賀県

Saga

“結婚したい”、“子どもがほしい”人を応援する418（しあわせいっぱい）プロジェクトがスタート

佐賀県は、“結婚したい”、“子どもがほしい”という人を応援する、「418（しあわせいっぱい）プロジェクト」に取り組んでいます。これは、「結婚」、「出産」という幸せを増やしていくことで、少子化に歯止めをかけようというもの。現在、佐賀県は合計特殊出生率が全国７位と上位にありますが、それでも少子化の波を食い止めるのは容易ではありません。平成29年には、平成23年の合計特殊出生率より0.1ポイント上げ、現在推定されている平成29年度の出生数を“418人”増やすことを目指しています。

この取組では、出会いから結婚、妊娠、出産、子育てまでのライフステージを通して、「しあわせづくり」を支援していきます。例えば、婚活支援では、「婚（コン）シェルジュ」を配置して事業所間の独身男女の出会いの場づくりを支援したり、市町や民間団体等が行う婚活イベントなどに助成を行ったりしています。また、不妊治療の補助の対象を拡大したり、男性が育児休業を取得した場合に、民間の事業主へ奨励金を支給するなど、ライフステージに合わせた支援に取り組んでいます。

「418（しあわせいっぱい）プロジェクト」ロゴ

今後は、独身男女が出会い、交流するイベント等を開催する「あい・しあわせ事業」や「子育てしやすい職場環境づくりアドバイザー」の県内企業への派遣、婚活を応援するセミナー・講演会、若い世代を対象としたトークライブ、中高生を対象とした乳幼児とのふれあいなども予定しています。

また、県庁の中でも、「418プロジェクト」を進めています。例えば、独身職員には庁内外での出会いの場の創出や、子どもがほしいという人には、助産師の資格を持つスタッフによる出産や不妊の相談窓口を設けるといった取組を行っています。そのほか、男性の育児のための休暇等取得や、テレワークの推奨など、女性も男性も働きやすい職場づくりを進めています。

◆「418プロジェクト」公式ホームページ
http://www.pref.saga.lg.jp/sy-contents/418project/

◆「418プロジェクト」 Facebook公式ページ
http://www.facebook.com/418project

長崎県

Nagasaki

長崎がんばらんば国体・大会まであと１年！

スポーツの秋本番。毎年この時期には、国体と全国障害者スポーツ大会が開催されますが、両大会の来年のステージは長崎県。国体の本県開催は実に45年ぶり、障害者スポーツ大会は本県初開催となります。

コンセプトは、県民の英知と情熱を結集して開催する「長崎県らしい魅力あふれる大会」。その実現に向け、文化・歴史とスポーツの一体化を図る「文化スポーツ融合国体」、全ての県民がおもてなしの心を持って参加する「県民総参加国体」、国体改革の理念に沿った簡素・効率化に向け創意工夫を凝らす「コンパクト国体」の三つを柱に掲げています。

メイン会場となる２万人収容の陸上競技場が今年３月にリニューアルオープンし、国体の競技別リハーサル大会も随時実施されているほか、式典演技や宿泊・輸送計画など開催に向けた様々な準備を進めています。

両大会の開閉会式と陸上競技の会場となる県立総合運動公園陸上競技場

広報活動では、県の鳥であるオシドリをモチーフにしたマスコットキャラクターの「がんばくん、らんばちゃん」を中心に、ロンドン五輪日本代表のアーチェリー女子銅メダリスト早川漣さんや陸上男子50キロ競歩代表の森岡紘一朗さんなどに協力いただきながら、県民への周知、参加意識の高揚を図っています。

１年後には皆さんを温かくおもてなしできるよう選手だけではなくスタッフも含め、県民の総力を結集して両大会をつくりあげ、スポーツの振興を始め、本県のイメージアップや地域づくりの推進につなげていきます。

お問合せ
長崎県国体・障害者スポーツ大会部大会総務課
TEL 095-895-2791

大分県

Oita

豊後大野市・姫島村が「日本ジオパーク」に認定されました

地球科学的に貴重な地質や地形を持つ国内の自然公園「日本ジオパーク」に、豊後大野市の「おおいた豊後大野市ジオパーク」と姫島村の「おおいた姫島ジオパーク」が県内で初めて認定されました。

「おおいた豊後大野市ジオパーク」は、約９万年前に噴火した阿蘇山からの火砕流が堆積した影響でできた「原尻の滝」等が中心となっています。火砕流が冷えてできた岩石を加工した多くの石橋や磨崖仏など、その豊かな恵みを生かして人々が育んできた文化が現代も息づいており、地質資源が地域の営みとうまく共存しているのが特徴です。

一方、「おおいた姫島ジオパーク」は、高さ約40m、幅約120mにわたって火山岩の一種「黒曜石」から形成される「観音崎」を核に、七つの火山の活動でできた島の成り立ちそのものの重要性が認められました。渡り蝶であるアサギマダラの休息地としても知られており、美しい大自然の宝庫としても魅力に満ちた島です。

また、両地域ではそれぞれ推進協議会を発足し、小中学生を対象とした学習会やガイドの養成、シンポジウムの開催など認定に向けた啓発活動に取り組んできました。それだけに、今回の認定は大きな喜びであるとともに、地域の活性化に大きく寄与するものと期待されています。

県としても、今回の「日本ジオパーク」認定が地域の元気に結び付き、さらなる発展につながるよう支援していきます。

原尻の滝

お問合せ

大分県生活環境部生活環境企画課
TEL 097-506-3025（直通）

熊本県

Kumamoto

「第33回全国豊かな海づくり大会～くまもと～」の開催迫る！

熊本県では、「育もう　生命（いのち）かがやく　故郷（ふるさと）の海」を大会テーマとし、10月26日（土）、27日（日）に熊本市、水俣市及び天草市で「第33回全国豊かな海づくり大会～くまもと～」を開催します。

全国豊かな海づくり大会は、水産資源の維持培養や海域環境保全の大切さを広く発信するとともに、水産業の振興と発展を図ることを目的として、毎年全国各地を巡りながら開かれている大会で、熊本県では初めての開催です。

熊本県立劇場で行う式典行事は、小山薫堂さん監修による映像上映と熊本を代表する伝統芸能「山鹿灯籠踊り」の披露で幕を開け、宮崎美子さんと大会キャラクター「くまモン」のナビゲートの下、熊本の「三つの海」の特徴や魅力を映像で紹介し、各海域にちなんだパフォーマンスを行います。さらには、功績団体表彰や最優秀作文朗読に続き、美しく再生した水俣の海の紹介を行い、未来を担う小学生や漁業後継者夫妻の思いを「くまもと海づくりメッセージ」として全国に発信します。

海上歓迎・放流行事では、エコパーク水俣会場において、熊本の三つの海で操業する漁船などによる漁法の紹介や稚魚の放流を行うほか、熊本港会場、牛深漁港会場でも放流を行います。

水俣湾の水中写真（撮影：森下 誠）

また、関連行事として、熊本市の中心市街地を主会場に、熊本の水産業の取組等を情報発信する企画展示、伝統芸能やさかなクントークショーなどのステージイベント、タッチングプール等のふれあい体験、熊本の魅力ある食材を集めた試食販売等を行うほか、各放流行事会場周辺においても、物産展等を実施します。

お問合せ

熊本県農林水産部水産局全国豊かな海づくり大会推進課
TEL 096-333-2458
大会HP http://www.pref.kumamoto.jp/site/umizukuri-kumamoto/

宮崎県

Miyazaki

宮崎県が香港事務所を開設
～アジア市場と経済交流へ～

宮崎県では、平成24年3月に策定した「みやざき東アジア経済交流戦略」に基づき、東アジアへの県産品の輸出促進や観光誘客等に取り組んでおり、その中でも、日本の食品の最大の輸出先であり、自由貿易政策をとる香港での展開を積極的に推進しています。

今年6月には農畜水産物等の輸出支援の拠点となる香港事務所を開設しました。当事務所は、日本からの物流の拠点となっている香港国際港に近接し、香港の商業地域など中心部まで電車で20分程度と物流の利便性に力点を置いた立地であるとともに、商品サンプル等を保管する物流倉庫や県内企業の輸出の足掛かりとなる「フロンティアオフィス」を併設しているのが特徴です。

また、8月には知事を団長とする官民一体の訪問団を香港へ派遣し、みやざきPRレセプション、「宮崎牛」指定店の認定証授与、知事によるトップセールスなどを行いました。香港事務所の開設を記念した「みやざきPRレセプション」は、現地業者やメディアなどを招き、宮崎がアジアに向け出発する式典と銘打って行われました。

みやざきPRレセプションの様子

今後、香港事務所では、県内企業の香港への輸出に向けた情報収集や現地企業とのマッチングなどの支援を行います。そして、官民一体となって「オールみやざき」体制で、アジア市場の経済交流に取り組んでいきます。

鹿児島県

Kagoshima

屋久島世界自然遺産登録20周年について

今年度、屋久島が世界自然遺産に登録されて20周年を迎えることから、鹿児島県等では、様々なイベントを開催しています。

去る7月25日には、鹿児島市で青森・鹿児島両県知事や鹿児島県奄美パーク園長等を務める宮崎緑氏らで、「白神山地・屋久島世界遺産登録20周年記念トークセッション」を開催しました。

また、10月20日（日）に、東京大学弥生講堂で開催される「屋久島世界自然遺産登録20周年記念シンポジウム」では、有識者による基調講演やパネルディスカッションが予定されています。

11月23日（土）～24日（日）に、屋久島町で開催される記念イベントでは、警察音楽隊の演奏などのアトラクションのほか、檀ふみ氏によるトークショーなどが予定されています。

これらのイベントのほか、地方自治法施行60周年記念貨幣及び記念切手の鹿児島県版が発行されます。千円銀貨幣の図柄は屋久島の遺産登録20周年をテーマに「縄文杉」、「永田岳」、「ヤクシマシャクナゲ」がデザインされ、五百円貨幣は「桜島」がデザインされています。記念切手は千円銀貨幣の図柄と、県内の代表的な景観をデザインした図柄の切手の5枚1組の切手シートとなっています。千円銀貨幣の購入には、造幣局への応募が必要ですが、五百円貨幣と記念切手は、全国の金融機関又は郵便局で引換え・販売されます。

トークセッションの様子

地方自治法施行60周年記念貨幣
（千円銀貨幣）

このように、遺産登録20周年を契機に様々な取組を行っております。是非、屋久島へおいでいただき、「本物」の自然を体験してください。皆様のお越しを心からお待ちしております。

お問合せ
鹿児島県自然保護課
TEL 099-286-2613

沖 縄 県

Okinawa

沖縄県立農業大学校
～～第 11 回農大祭～～

沖縄県立農業大学校で毎年開催される「農大祭」では、学生が趣向を凝らし取り組んでいるプロジェクトを紹介するなど、日頃の実践学習の成果を県民に広く紹介しています。毎年多くの県民が訪れ、大いに盛り上がりを見せており、学生との交流を通して本校への理解と関心を高めています。

学生が栽培管理する農産物の展示即売会やミニ栽培講習会、また、育てた牛の上物精肉販売やその肉を使った牛汁・ビーフカレーの販売などを行っています。そのほかトレーラーバスの運行、農機具の展示、学生エイサーなど、盛りだくさんの内容です。

温暖な冬の沖縄に、「体験」して「楽しさ」を実感し、農業の魅力を充分に感じられる農大祭へ、多くの皆様、めんそ～れ（いらっしゃいませ）！

開催日：平成 25 年 12 月 7 日（土）、8 日（日）

お問合せ
沖縄県立農業大学校
TEL 0980-52-0050
HP http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/nodai/index.html

「先進政策バンク」の一般公開について

全 国 知 事 会

本会では、平成18年12月18日(月) から、「先進政策バンク」ホームページ(http://www.seisaku.nga.gr.jp) を開設し、一般公開をしています。

インターネットを通じて閲覧することができるこのシステムは、都道府県同士が、それぞれの先進的な取組を提案・共有し合い、良いものを広げるとともに、切磋琢磨により創造性豊かな発想につなげる情報提供の場です。

また、地方分権型社会を目指す各都道府県の先進的な施策・事業について、分野別や都道府県別等の検索が行えますので、国民の皆様にも幅広く御理解の上、御活用いただきたいと思います。

なお、「先進政策バンク」ホームページには、本会のホームページ(http://www.nga.gr.jp) からもアクセスすることができますので、これらのホームページを閲覧、活用していただきたく存じます。

当サイトに関するお問合せにつきましては、右の窓口まで御連絡下さい。

連絡窓口：全国知事会調査第三部・
地方自治政策センター
TEL ：03-5212-9136
FAX ：03-5210-2020
メール ：kenkyushitsu@nga.gr.jp

都道府県の情報コーナー

イベント・PR 名等をクリックすると URL にリンクします

都道府県名	イベント・PR 名など	実施期間・実施日
北海道	道立釧路芸術館　重要文化財「正行寺」よみがえった襖絵展	～H25 年 11 月 27 日
	道立帯広美術館特別展　日本のアニメーション美術の創造者　山本二三展～天空の城ラピュタ、火垂るの墓、時をかける少女～	～H25 年 11 月 13 日
青森県	特別展「青森県立郷土館開館 40 周年記念 平尾魯仙～青森のダ・ヴィンチ～」	～H25 年 11 月 10 日
	十和田奥入瀬芸術祭	～H25 年 11 月 24 日
秋田県	秋田県のイメージアップのための「あきたびじょん」プロジェクト進行中！	－
	秋田県観光総合ガイド　イベントや見どころなど旬の情報が満載！	－
	秋田の物産情報サイト　特産品やイベントの情報をお届けします	－
岩手県	岩手県イベントカレンダー	－
山形県	やまがたへの旅　観光ホットニュース	－
	全国各地における「山形県物産展」の開催情報	－
宮城県	みやぎ観光 NAVI	－
	食材王国みやぎ	－
福島県	ふくしま復興・再生可能エネルギー産業フェア（REIF ふくしm２０１３）開催の案内	H25 年 11 月 6 日～ 11 月 7 日
	メディカルクリエーションふくしま２０１３の開催	H25 年 10 月 30 日～ 10 月 31 日
	新島八重の生涯と白河～白河がつなぐ故郷への想い～ 白河市歴史民俗資料館 0248-27-2310	～H25 年 11 月 4 日
新潟県	見附のとっておき百選	H25 年 10 月 25 日～ 10 月 27 日
	秋の味覚狩り２０１３	－
	佐渡トキツーデーウオーク２０１３	H25 年 10 月 19 日～ 10 月 20 日
東京都	イベントカレンダー	－
群馬県	イベント情報	－
栃木県	イベント情報	－
茨城県	イベントカレンダー	－
埼玉県	やしお八つのハッピー野菜博覧会　「はぴベジ博２０１３」	～H25 年 11 月 30 日
	美の万華鏡	～H25 年 10 月 28 日
千葉県	イベント情報	－
神奈川県	神奈川のおすすめポイントや楽しいイベントを紹介［かながわ散歩］	－

都道府県名	イベント・PR 名など	実施期間・実施日
山梨県	山梨のにぎわいを創出する情報発信基地「やまなしプラザ」	–
	山梨県知事×職員ブログ「やまなしものがたり」山梨の魅力配信中	–
	富士の国やまなし国文祭 2013　11 月 10 日までなんと“通年開催中”	～ H25 年 11 月 10 日
静岡県	「WE LOVE FUJISAN 3776 メッセージ」募集	募集中
	イベント	–
	しずおかを楽しむための情報サイト「静岡大好き。しずふぁん !!」	–
長野県	信州四季旅キャンペーン [秋] ぐるっと信州体験博　２０１３	～ H25 年 11 月 30 日
富山県	越中とやま食の王国フェスタ 2013 ～秋の陣～	H25 年 10 月 26 日～ 10 月 27 日
	観光・イベント情報が満載！「とやま観光ナビ」	–
	県内の最新情報をお届け！「Toyama Just Now」～メルマガ配信中～	–
石川県	「百万石の菓子文化　いしかわスイーツ博２０１３」開催！！和洋の菓子店が大集合するスイーツカフェ、いしかわのお菓子がよく分かる展示コーナー、ステージイベント、スイーツ茶会、和菓子作り体験コーナーなど	H25 年 10 月 26 日～ 10 月 27 日
岐阜県	世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ　「サケ、マス、魚類」	～ H25 年 11 月 10 日
	花フェスタ記念公園　「秋のバラまつり」	H25 年 10 月 12 日～ 11 月 10 日
	岐阜県美術館　「オディロン・ルドン　夢の起源」	～ H25 年 10 月 27 日
愛知県	リニモ秋色ウォーキング	H25 年 10 月 13 日、19 日、11 月 3 日、10 日、24 日
	愛知県陶磁美術館　企画展「泥象　鈴木治の世界」	H25 年 10 月 12 日～ 12 月 23 日
	あいち花フェスタ２０１３	H 25 年 10 月 19 日～ 20 日　11 月 1 日～ 4 日
三重県	三重県立美術館 企画展「歿後 20 年　中谷泰 展」	H25 年 10 月 12 日～ 12 月 8 日
福井県	一乗谷朝倉氏遺跡資料館　企画展 「戦国のまなびや～朝倉文化 文武を極める～」	～ H25 年 11 月 10 日
	福井県立美術館　「空前絶後の岡倉天心展」	H25 年 11 月 1 日～ 12 月 1 日
滋賀県	滋賀県の催し物案内	–
	「びわ湖環境ビジネスメッセ 2013」を開催します	H25 年 10 月 24 日～ 10 月 26 日
京都府	おいしおすえ京野菜京都「九条ねぎ」フェスティバル	H25 年 10 月 12 日～ 10 月 14 日
	Cool Kyoto 2013	H25 年 10 月 25 日～ 10 月 27 日
大阪府	水都大阪フェス 2013	～ H25 年 10 月 31 日
	現代アートの世界に輝く新星　作品募集	～ H25 年 11 月 30 日
	ピピっとネット	–
奈良県	第 34 回全国豊かな海づくり大会～やまと～　１年前プレイベント！	H25 年 10 月 12 日～ 11 月 24 日
	平城京天平祭・秋２０１３～華が彩る秋の平常宮跡へ～	H25 年 11 月 2 日～ 11 月 10 日
	うだ・アニマルパークでふれあいフェスタ２０１３	H25 年 10 月 26 日～ 10 月 27 日
和歌山県	和歌山県の旅のことなら！わかやま観光情報	–
兵庫県	兵庫県広報専門員のブログ「ひょうごワイワイ plus+」配信中！	–
	フェイスブック「はばタンなび」に遊びに来てね	–
	東日本大震災被災地応援ツイッター「311from117Hyogo」	–
鳥取県	第３回倉吉ばえん祭	H25 年 10 月 27 日
	第８回ゆるキャラ ® カップ in 鳥取砂丘	H25 年 11 月 2 日～ 11 月 3 日
	とっとり花回廊　オータムフェスティバル	～ H25 年 11 月 10 日

都道府県名	イベント・PR 名など	実施期間・実施日
岡山県	あなたの知りたい岡山の観光情報がきっとみつかる！「晴れらんまん　おかやま旅ネット」	–
島根県	イベントカレンダー	–
広島県	イベント・行事情報	–
山口県	この世とあの世を描き尽くした全100編、大公開！山口県立美術館で「没後150年　狩野一信　五百羅漢図展」を開催	H25年10月10日～12月8日
	元気になるメールマガジン！「山口きらめーる」をリニューアル！	–
香川県	「瀬戸内国際芸術祭２０１３」　秋会期	～H25年11月4日
	うどん県・時間旅行物語	～H25年12月1日
徳島県	にし阿波と恋する時間～あわこい～	H25年10月12日～11月4日
	「エクストリームチャレンジin四国の右下2013」エントリー受付中！	H25年11月9日～10日
	第３回「四国の右下」食博覧会	H25年11月16日～17日
愛媛県	「瀬戸内しまのわ 2014」フェイスブックを紹介！	–
	「みきゃんのかんづめ」フェイスブックを紹介！	–
	「香川・愛媛せとうち旬彩館」を紹介！	–
高知県	「まるごと高知」お取り寄せ・贈り物カタログをご利用ください！	–
	高知・西南地域観光キャンペーン 楽しまんと！はた博	～H25年12月31日
	「第１回幸せ移住プランコンテスト」プラン募集中！	～H25年10月31日
福岡県	福岡県観光情報サイト「クロスロードふくおか」 特集　「夜空にきらめく異次元空間　北九州工場夜景を“思いっきり！”探訪」	–
佐賀県	佐賀県のイベント情報	–
	佐賀県立名護屋城博物館 開館20周年記念企画展「秀吉の宇宙－黄金、そして茶湯－」	～H25年11月4日
	2013佐賀インターナショナルバルーンフェスタ	H25年10月31日～11月4日
長崎県	長崎県の驚きと感動の食情報が満載「食KING王国」！	–
	長崎がんばらんば国体・大会　2014	H26年10月12日～10月22日　11月1日～11月3日
大分県	おんせん県って言っちゃいましたけん！	–
	日本一の「おんせん県おおいた」大分県観光情報公式サイト	–
熊本県	熊本まるわかり！トピックス　くまモン eye's	–
	どっちゃん行く？熊本	～H26年3月31日
	『「阿蘇」東京シンポジウム～世界文化遺産登録を目指して』	H25年10月30日
宮崎県	みやざき観光情報　旬ナビ	–
	「宮崎県広報」フェイスブックで発信中！	–
鹿児島県	イベント情報	–
	鹿児島県観光サイト　本物。の旅かごしま　イベント情報	–
沖縄県	沖縄の奥、島の奥。おくなわ　離島ガイド・プロジェクト	–
	沖縄のグリーンツーリズム	–
	おきなわ物語／沖縄観光情報 WEB サイト	–

貸し会議室の御案内

都道府県会館は、小規模の会合から研究会、講演会、総会、レセプションなどに至るまで、
大、中、小合わせて 11 室の会議室を用意しています。

財団法人　都道府県会館

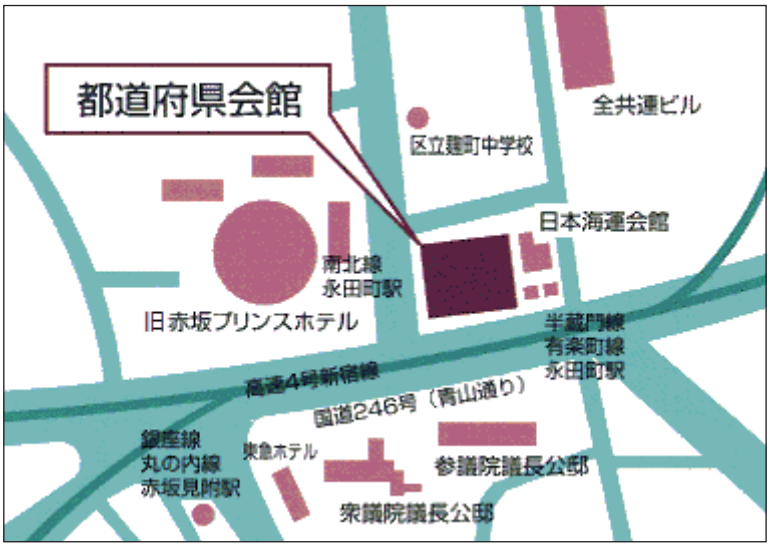
室名	階	面積（m^2）	定員（人）			税込使用料金（単位：円）		
						1 日	半日	
			スクール	口型	マイクの使用		午前	午後
						9:00 ~ 17:00	9:00 ~ 12:00	13:00 ~ 17:00
１０１大会議室	1	252	168	60（随行 90）	有線 5、ワイヤレス 6	262,500	157,500	
４０１号室	4	146	81	48（随行 18）	有線 5、ワイヤレス 2	115,500	69,300	
４０２号室	4	236	144	60（随行 60）	有線 5、ワイヤレス 2	189,000	113,400	
４０３号室	4	59	24	24	不可	44,100	26,250	
４０４号室	4	43	24	24	不可	34,650	21,000	
４０５号室	4	43	24	24	不可	34,650	21,000	
４０６号室	4	60	－	18（テーブル固定）	不可	52,500	31,500	
４０７号室	4	83	28	28	有線 4、ワイヤレス 2	73,500	44,100	
４０８号室	4	80	36	36	有線 4、ワイヤレス 2	63,000	37,800	
４０９号室	4	59	24	24	不可	44,100	26,250	
４１０号室	4	116	36	36	有線 4、ワイヤレス 2	105,000	63,000	

（1）準備等の作業も、上記時間帯に含みます。
（2）使用時間の延長は、当会館が認めた場合で、1 時間未満に限ります。
　　その際の延長料金は、別に定めます。
（3）附属器具の使用には別途使用料金がかかります。

お問合せ

財団法人
都道府県会館管理部

TEL：03-5212-9162
FAX：03-5212-9163
http://www.tkai.jp/info/index.html



交通機関と所要時間

●地下鉄有楽町線・半蔵門線　「永田町駅」５番出口から地下鉄連絡通路を経て徒歩１分
●地下鉄南北線　「永田町駅」９番Ｂ出口から地下鉄連絡通路を経て徒歩１分
●地下鉄丸の内線・銀座線　「赤坂見附駅」から徒歩５分

表紙解説

屋久島～世界自然遺産登録20周年～

鹿児島県

鹿児島県の屋久島は、周囲約132kmのほぼ円形の島で、円錐形の地形をなしており、九州一の宮之浦岳（1,936m）を始め、1,000mを超える山が40峰以上連なり、洋上アルプスとも呼ばれています。

また、日本最大の杉と言われる「縄文杉」、映画「もののけ姫」のモデルになった「白谷雲水峡」、雄大に水しぶきを上げる「千尋の滝」、アカウミガメの国内最大の産卵地と言われる「永田浜」など、屋久島には、訪れる人を楽しませ、癒やしを与えてくれる自然の魅力がたくさんあります。

ここ数年、屋久島には毎年30万人を超える入り込み客があり、そのうち約10万人が登山客と言われています。

観光客や登山客の増加に伴い、ヤクスギやウミガメなど貴重な動植物の保護、山岳部のし尿処理など屋久島ならではの課題も生じています。

そのため、県では、屋久島CO_2フリーの島づくり、屋久島山岳部保全募金活動、ウミガメ保護条例の制定などに取り組み、世界に誇れる屋久島の自然環境の保護及び保全に努めているところです。

屋久島は、平成５年12月に世界自然遺産に登録され、今年で20周年を迎えます。

今後とも、世界自然遺産の島「屋久島」の自然環境を守りながら、その魅力を国内外に向けて発信していきます。

※表紙の写真は、映画「もののけ姫」の舞台のモデルになった「白谷雲水峡」です。
本ページの写真は、周囲13.8mの屋久杉の切り株「ウィルソン株」です。
株内部の空洞から見上げると、屋久島の森がハート型に見えるポイントがあります。

編集後記

▼秋を迎え、少しずつ涼しくなってきました。季節の変わり目ですので、風邪をひかぬよう体調管理に気を付けたいところです。

▼先月中旬に、遅めの夏期休暇を取得しニューカレドニアにでかけてきました。日本からの距離は約8,000km、飛行時間８時間の長旅でしたが、日本との時差は約２時間だけでしたので、身体への負担はほとんどありませんでした。

▼ニューカレドニア最大の都市ヌメアから、さらに飛行機でイル・デ・パンという離島に渡りました。ニューカレドニアは美しい海に囲まれ、珊瑚礁は世界遺産に登録されていますが、なかでも今回訪れたイル・デ・パンは、南太平洋の宝石箱と例えられており、言葉で表現できないほどの大変美しい場所でした。

▼ここで感じたことは、月並みですが、自然を壊してはいけないということです。環境問題等普段あまり考えないのですが、あまりに美しい海を前にしてゴミなどを絶対に落とさないように気を付けて旅行を楽しんできました。

▼さて、今月号では、「中小企業の海外展開について」と題した特集記事を掲載しました。執筆に当たっては、愛知淑徳大学ビジネス学部学部長の真田先生を始め、埼玉県、愛知県の皆様に御協力をいただきました。来月号では、「行政不服審査制度の見直しについて（仮）」と題した特集記事を掲載する予定です。

（直）

都道府県展望 平成25年10月号　通巻661号

発行所　全国知事会
発行人　橋本光男
住　所　〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3　TEL.03-5212-9134
制　作　株式会社サンワ